



帯広市交通環境学習普及推進事業

報 告 書

平成 28 年 2 月

帯広市

目 次

1	事業の概要.....	1
(1)	事業の目的	1
(2)	事業の項目	1
2	実施内容の検討	2
2-1	各学年における交通環境学習のあり方について	2
2-2	実施の枠組みについて.....	3
3	自主実施用教材の検討.....	5
3-1	1 学年用教材の検討	5
3-1	2 学年用教材の検討	7
3-1	3 学年用教材の検討.....	8
4	出前講座資料の検討	9
4-1	出前講座「環境問題教室」プログラムのこれまでと課題	9
4-2	低学年用資料の検討	10
5	検討会議の開催	15
5-1	第1回 帯広市交通環境学習検討会議 概要	15
5-2	第2回 帯広市交通環境学習検討会議 概要	18
5-3	第3回 帯広市交通環境学習検討会議 概要	23
5-4	意見交換会	28
6	帯広市交通環境学習プランの検討.....	33
7	今後のスケジュール	35
	<資料編>	36
	<資料1>平成27年度 帯広市交通環境学習プラン	36
	<資料2>1 学年用自主実施教材	50
	<資料3>2 学年用自主実施教材	54
	<資料4>3 学年用自主実施教材	60
	<資料5>3 学年用「バスのしごと」写真資料.....	64

1 事業の概要

(1) 事業の目的

帯広市ではモータリゼーションの進展による影響を受け、昭和 55 年以降、路線バスの路線数・利用者数は減少した。温暖化対策や今後の高齢化により公共交通が重要な役割を担っていることから、平成 13 年度に「帯広市バス交通活性化基本計画」、平成 20 年度に「帯広市地域公共交通総合連携計画」を策定し、公共交通利用促進施策に取り組んでおり、路線バスの利用者数が微増に転じている。

なかでもソフト施策としてモビリティ・マネジメント（以下「MM」）を用いた公共交通利用促進の取り組みや、「帯広らしい環境教育プログラム集」（帯広市教育委員会）の配布などを中心に、家庭・地域・行政によるプログラム普及に取り組んでいる。

平成 19 年からは帯広市・運輸支局・バス事業者等が連携し、小学校 4～6 年生を対象として環境負荷軽減と公共交通の目的・役割を学ぶ出前講座「環境問題教室」を実施しており、主に「総合的な学習の時間」においてこれまでに 36 件の実績があり、教育現場からは継続的な実施への要望が挙げられている。また一方で、この出前講座の実施が「総合的な学習の時間」の枠内で行われており、平成 21 年の「総合学習」の時間数削減等から出前講座の時間確保が困難であるとの意見が挙げられている。また現在の講座は高学年を対象としたものであり、幅広い環境学習を実施するうえで低学年向け講座の要望が寄せられている。

以上のことから、本事業においては一時間（単元）から実施できるプログラムや、総合学習だけでなく既存教科との整合性も考慮し、教育現場と連携して取り組みやすいプログラムの検討、児童にもわかりやすい教材の作成を行うことで、継続的な交通環境学習の実施と普及促進に繋げていくものである。

(2) 事業の項目

- ① 「帯広らしい交通環境学習」実施内容の検討
- ② 自主実施用教材の検討
- ③ 出前講座資料の検討
- ④ 交通環境学習検討会議の開催
- ⑤ 帯広市交通環境学習プランの検討

2 実施内容の検討

2-1 各学年における交通環境学習のあり方について

「交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）」は全国で様々な実践が行われているが、いずれも「学習指導要領において定義されていない」ことから、実施の枠組みが限定的になることが課題となっている。

しかし、2007年6月に改正された学校教育法において「学校内外における社会的活動を促進し、自主、自立及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」が提示されており、交通環境学習の目的・意義との類似性が指摘されているところである。

帯広市における交通環境学習の教材ツール検討および実践の段階においても、これら学習指導要領における学習目標との関連性や、意義を適切に提示することが不可欠であり、既存教科において段階的に「公共交通と環境」に関する学習を位置づけていくことを想定して検討を行った。

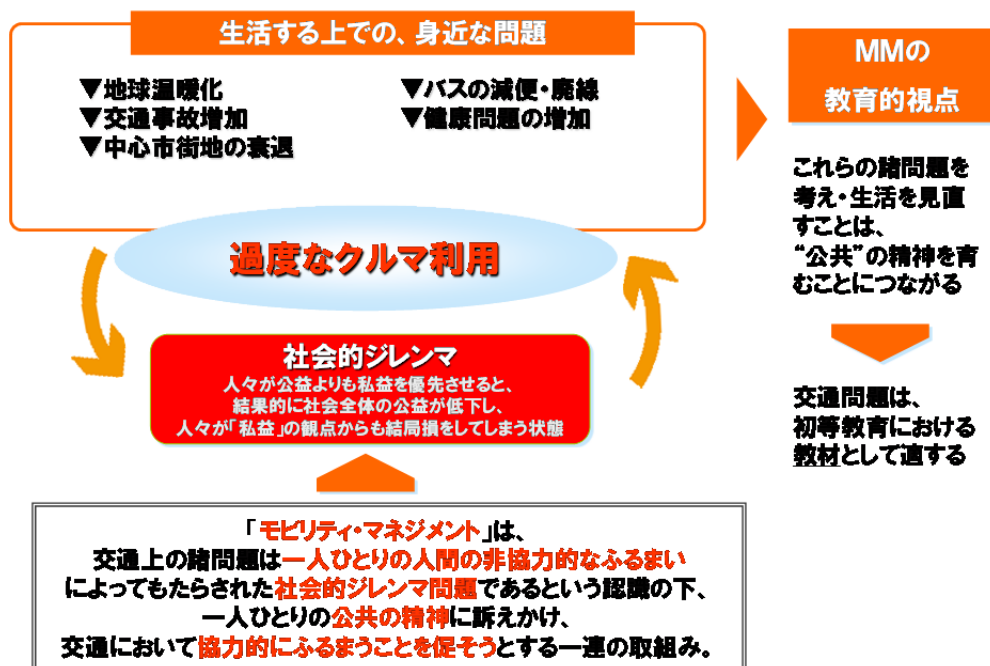


図 1 帯広市における交通環境学習・モビリティ・マネジメント教育の方向性

2-2 実施の枠組みについて

帯広らしい交通環境学習プログラムにおいては、公共交通と環境をテーマとした学習を、各学年で経年的に実践されることを目指している。そのため、当面は小学校における「自主実施」と「出前講座」による交通環境学習に関する教材提供を並行して行う。

「自主実施」用の教材は、授業1時間で行えるものとし、基本的に既存教科学習の地域教材として位置づける（例：「町たんけん」における序盤または展開学習での利用など）。

「出前講座」は、従来「環境問題教室」として行っていた内容を見直し、自主実施につなげるための教材提示を目的として実施する。

表 1 実施の枠組みについて

教育プログラムの運用について

- 1～6学年に対応した「交通と環境学習」メニューを用意する。
- 各学校における「自主実施」と、行政・事業者が行う「出前講座」を提示する。

「教材ツール」による小学校での自主実施	出前講座
<ul style="list-style-type: none"> □ 各小学校における、単元内での利用を想定した教材（スライド、資料集など）を整備する。 □ 授業1時間（45分間）の指導案を作成する。 <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> • 従来の授業において、地域素材として「交通と環境」に関する学習が行える。 • 通常の授業形態となるため、前後の学習と関連した取り扱いが可能である。 • 教育機関が受け入れやすい仕様（教材ツールのバインダー収録など）により全校配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 1単元（45分間）を外部講師（帯広市・運輸行政・再生燃料事業者・バス事業者）が行う。 □ 低・中学年（1～4学年）では座学と体験学習、5学年以上では座学で実施する。 <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> • 交通環境学習のきっかけとして、教材ツールの紹介・説明等を行う。 • 出前講座の申し込み時に自主実施内容を提示するなど、「出前講座」の内容は、将来的には学校による自主実施に移行する。

表 2 教育プログラムの位置づけ

学年	教科	自主実施用(45分) 教材ツール（1単元分の指導案を含む）	制作状況			出前講座<座学>（15分）		出前講座<体験>（30分）		制作状況			
			H26	H27	H28	テーマ	ツール	テーマ	ツール	H26	H27	H28	
1学年	道徳	紙しばい 「ヒロくんバスに乗る」 (1) みんなでつかうもの	-	○	-	みんなでつかうのりもの 「ヒロくんバスに乗る」	紙しばい	バスにのってみよう	ラミネートシート ・整理券箱 ・押しボタン 等	-	○	部分 改定	
2学年	生活	スライド(フリップ)・動画・ ワークシート (1) みんなでつかうのりもの(バス)	-	○	部分 改定	みんなでつかうのりもの	スライド (動画含)	まちのりもの	交通すごろく (通常版)	-	試作	部分 改定	
3学年	社会	スライド(フリップ)・動画・ ワークシート (1) バスのしごと(役割)	-	○	部分 改定	バスのしごと	スライド (動画含)	まちのりもの	交通すごろく (通常+CO2版)	-	○	部分 改定	
学年	教科	自主実施用(45分)	制作状況			出前講座<座学>(25分)		出前講座<体験>(20分)		制作状況			
4学年	社会	スライド・動画・ワークシート・資料集 (1) ごみをエネルギーに(スライド) (2) BDFができるまで(サンプル) (3) 交通のうつりかわりとバス(仮題)	-	-	○	エネルギーと 公共交通のおはなし	スライド (動画含)	まちのりもの	交通すごろく (通常+CO2版) ※児童自身で集計	-	-	○	予定
学年	教科	自主実施用(45分)	制作状況			出前講座<座学>(45分)				制作状況			
5学年	社会 (総合)	スライド・動画・ワークシート・資料集 (1) 環境をまもるわたしたち(資源) (2) 未来のエネルギー	-	-	○	交通と環境のおはなし	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> (校外学習の提案) ◎ バス会社見学 ◎ バイオディーゼル燃料製造体験 など </div>	スライド		○	部分 改定	部分 改定	
6学年	社会 (総合)	スライド・動画・ワークシート・資料集 (1) 国の政治のしくみ(公共交通の役割と税金)	-	-	○	まちとバスの役割 (まちのうつりかわり+環境)		スライド (動画含)		-	-	○	予定
学年	教科	教材ツール	H26	H27	H28	校外学習時用(バス乗車時の説明用ツール)				H26	H27	H28	
1~3学年	特別活動	ビデオ・写真素材・ワークシート バスののりかた	-	-	○	写真資料(フリップ)・模型・クイズ バスののりかた				-	試作	○	予定
4~6学年	特別活動	ビデオ・写真素材・ワークシート バスの乗り方	-	-	○	写真資料(フリップ)・模型・クイズ バスの乗り方				-	試作	○	予定
共通		ウェブサイト(常広市ホームページ内)				-				-	-	○	予定

3 自主実施用教材の検討

3-1 1学年用教材の検討

みんなでつかうのりもの「ヒロくん バスにのる」	
教科	道徳
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスという公共交通機関を利用するなかで、安全のためにルールを守ること、人に親切にすることを考える。 ・ 友達と初めて乗るバスの中で、自由に歩き回ったり、座席を独り占めしたりしてしまう。しかし、バスの運転手との交流や友達の行動に触れていく中で、道徳的実践力を身に付けていく。 ・ 紙しばいというツールの特性を生かして、物語の展開を意図的に止めながら発問を行うなどして、児童にヒロくんの立場になって考えさせる。
使用する教材	紙しばい
教室に必要な機材	特になし
まとめ・表現	—
関連する学習指導要領	2. 主として他の人とかかわりに関すること。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。 (2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 4. 主として集団や社会とかかわりに関すること。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。



図 2 紙しばいイメージ

道徳学習指導案

日 時：〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時

場 所：〇〇教室

授業者：

1 主題名 みんなの物を大切に

2 資料名 バスにのろう (帯広市交通環境学習作成・紙しばいを使用して)

3 ねらいと指導内容

(1) ねらいとする価値について

(2) 児童の実態について

(3) 資料について

本資料は、バスという公共交通機関を利用することを題材に、ルールを守ることや人に親切にすることは社会生活を営む上で、基本的な生活態度ということに感じ取ることができる資料である。

ヒロくんは、友達と初めて乗るバスの中で、自由に歩き回ったり、座席を独り占めしたりしてしまう。しかし、バスの運転手との交流や友達の行動に触れていく中で、道徳的实践力を身に着けていく様子が描かれている。

紙しばいという特性を生かして、物語の展開を意図的に止めながら発問を行うなどして、児童にヒロくんの立場になって考えさせるようにしたい。

4 本時の学習

(1) ねらい

バスの使い方を通じて「みんなでするもの」の使い方やルールを守ることを考え、みんなでするものを大切にしようとする態度を育てる。

(2) 展開

	学習活動 (主な発問)	期待する児童の反応	教師の支援 ○指導上の留意点 □評価
導入	1 バスの写真を見せる	・乗ったことがある／ないよ ・...	○写真から価値への方向付けをする。
展開	2 紙しばいを読む (前半)		○話の流れがつかめるように、設定を確認する。

ヒロくん (主人公) …バスに初めて乗る (ワクワク、どんな乗り物かな)
 ○バスの中を歩き回る<3枚目> → あぶないな、すわったらよいよ
 <4、5枚目> → いきなり動き出したところぶんだ

3 紙しばいを読む (後半)		○いろんな意見があることを認める。
○バスの席は誰のもの? <7、8枚目> → みんなのものだよ 二つも一人で使うのはよくないよ		
◎みんなはどうする? (ヒロくんはどうする?) <10枚目>	<ul style="list-style-type: none"> ・そのままにする →先にすわっていたからヒロくんのもの ・席を一つつめる →小さい子のために席をあける →自分より小さい子だから ・席をゆずる →お母さんもいた方がよい 	○理由を明らかにしながら発言できるように支援する。
4 みんなはどんな2年生になりたいかな?	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守っていくお兄さん ・やさしいお兄さん ・気持ちのよいお兄さん 	☆自分だけでなく、友達やみんなが使う物も大切にしようとする気持ちをもつことができたか。(発表)

図 3 指導案

3-1 2 学年用教材の検討

みんなであつかうのりもの	
教科	生活科
学習目標	◎ 身近な公共交通である「バス」に親近感をもつ。 ◎ バスが「みんなであつかうもの」であることを知ることができる。 ◎ バスの乗り方・降り方について知ることができる。
使用する教材	・スライド(パワーポイント、ラミネートパネル) ・ワークシート
教室で 必要な機材	<教室>(パワーポイントを使用する場合) ・モニター ・PC、タブレットなど(Windows7 準拠) <児童>・筆記用具
まとめ・表現	はっけんワークシート
関連する学習指導要領	<学習指導要領:生活科> (3) 自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。 (4) 公共物や公共施設はみんなのものであることやそれを支えていることなどが分かり、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。



図 4 スライドイメージ、ワークシート

3-1 3年用教材の検討

バスのやくわり(駅のまわり・まちの仕事を調べる)	
教科	社会科
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 地図を用いて、バス路線の広がりから帯広市の空間認識を深めることができる。 ◎ まちの仕事に興味をもつことができる。 ◎ バスの仕事について知り、工夫や自分との関わりについて考えることができる。
使用する教材	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド(パワーポイント、動画、ラミネートパネル) ・ワークシート
教室で必要な機材	<p><教室>(パワーポイントを使用する場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニター ・PC、タブレットなど(Windows7 準拠) <p><児童>・筆記用具</p>
まとめ・表現	発見ワークシート
関連する学習指導要領	<p>目標:</p> <p>(1) 地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。</p> <p>内容:</p> <p>(1) 自分たちの住んでいる身近な地域や市(区、町、村)について、次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。</p> <p>ア 身近な地域や市(区、町、村)の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物など</p> <p>(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。</p> <p>ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。</p>

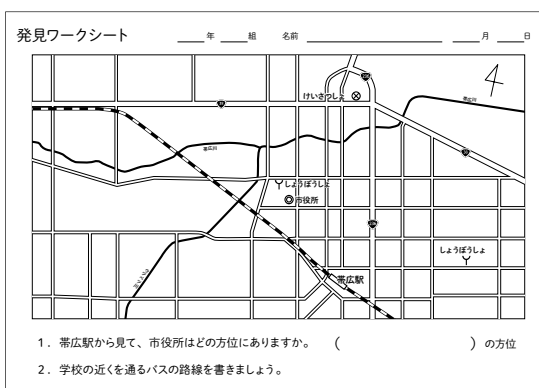


図 5 スライドイメージ、ワークシート

4 出前講座資料の検討

4-1 出前講座「環境問題教室」プログラムのこれまでと課題

平成 19 年から帯広市・運輸支局・バス事業者等が連携し、小学校 4～6 年生を対象として環境負荷軽減と公共交通の目的・役割を学ぶ出前講座「環境問題教室」を実施している。

教育現場からは継続的な実施への要望が寄せられている一方で、この出前講座の実施が「総合的な学習の時間」の枠内で行われており、平成 21 年の「総合学習」の時間数削減等から出前講座の時間確保が困難であるとの意見が挙げられている。

また現在の講座は高学年を対象としたものであり、幅広い環境学習を実施するうえで低学年向け講座の要望が寄せられていたことから、学年別の出前講座内容の検討を行った。

表 3 出前講座「環境問題教室」実施数(単位:人)

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
3 学年	-	-	-	-		-	-	-	59
4 学年	302	96	150	181	130	-	232	125	118
5 学年	397	163	148	139	73	115	60	37	70
6 学年	135	11	130	-	-	26	-	-	56
中 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中 2	-	144	116	-	-	-	-	-	
計	833	414	544	320	250	141	292	162	303

表 4 H27 年度 出前講座実施状況

小学校名	開催日	学年・人数	使用資料	校外学習行き先
啓西小学校	4 月 28 日	6 年(56 名)	交通と環境のおはなし	百年記念館
西小学校	9 月 29 日	5 年(39 名)	交通と環境のおはなし	十勝バス見学
啓北小学校	10 月 7 日	3 年(59 名)	まちたんけん・バスの巻	十勝チーズ館
啓北小学校	10 月 9 日	4 年(60 名)	交通と環境のおはなし	百年記念館
帯広小学校	11 月 11 日	5 年(31 名)	交通と環境のおはなし	帯広の森・はぐくむ
明星小学校	11 月 19 日	4 年(58 名)	交通と環境のおはなし	くりりんセンター

4-2 低学年用資料の検討

4-2-1 3 学年用出前講座資料の検討

3 学年用出前講座の資料について、学年に応じた内容の見直しと試行版による実践を行った。

座学は「まちたんけん・バスの巻」と題したスライドを使用し、社会科のまちたんけんとの関連性を持たせた内容としているほか、体験学習として交通すごろくの試行版を使用した。

出前講座実施について(平成 27 年度)

対象校・児童

帯広市立啓北小学校
3 年生 児童 59 名 引率教諭 3 名

実施日時

平成 27 年 10 月 7 日(水)
1 時間目～4 時間目(8:40～11:55)
座学:3F ミーティングルーム(8:40～9:25)

概要

公共交通の役割について着目し、安全なバスの乗り方と、公共交通との関連について知ってもらうことを目的として実施。
(※現地学習は明治十勝チーズ館見学)

実施主体

< 講師 >
国土交通省 北海道運輸局 帯広運輸支局
< 進行 >
帯広市(商業まちづくり課 環境都市推進課)
< バス運行 >
北海道拓殖バス株式会社
< 資料検討 >
帯広市交通環境学習検討会議



図 6 環境問題教室実施中の様子
(上:座学、下:交通すごろく)



図 7 使用スライド

4-2-2 低学年用体験学習用ツール（出前講座用）の検討

(1) のりかたごっこ（1学年用）

1学年用出前講座「ヒロくんバスにのる」の体験学習用ツールの検討を行った。

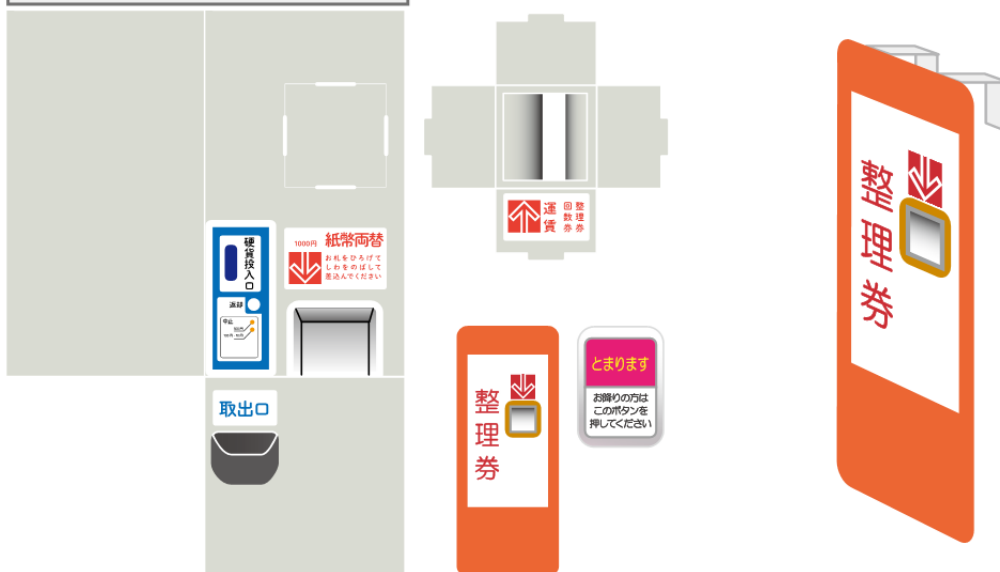
帯広の児童は路線バスの乗車体験が少ない。そのため1学年においては、バスの乗り方を教室内で疑似体験する「ごっこあそび」用のツールを検討した。実物大の模型等は臨場感などの点で優れるが、貸し出しや保管の簡便さを優先し、教室内の椅子と机をバスに見立てて、乗り降りの流れを体験するものとした。運賃箱以外は椅子の背に掛け、運賃箱は机の上に載せて使用する。

バスののりかた<手順>
(6人グループの場合)

はじめに「見本」を先生が行う。

- ① いす・机を並べる。
- ② バス停、運賃表、整理券器、降車ボタン、運賃箱を椅子の背に掛ける。
- ③ 運転士役を決める。
- ④ バス停から3人乗り、
1) 整理券をとる
2) 座る
- ⑤ 運転士役が「次は〇〇です」と声かけをしたら、ボタンを押す。
- ⑥ 運賃箱に整理券とお金を入れる(渡す)。
- ⑦ 運転士役は「ありがとうございました」。お客さん役もあいさつを返す。
- ⑧ 全員乗降したら、運転士役を交代する。

バス ドライバー ミナトル	整理券	1	2	3	4	5	6	7	8
	運賃	3	10	260	240	220	170		
		9	10	11	12	13	14	15	16
		17	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31	32	



(整理券は出力用シートのデータを用意)

図 8 のりかたごっこ用ツール・手順

4-2-3 「バスの乗り方」資料の検討

これまでバス事業者が独自で構成していた「バスの乗り方」の説明用ツールについて、より児童への理解を深めてもらうこと、また関係者間での共通認識を持つこと、説明者の負担軽減を目的とした検討を行った。

平成 27 年度は試行版を用いて、出前講座（環境問題教室）実施時に実践を行った。

実施概要

対象校・児童

帯広市立帯広小学校
5 年生 児童 36 名 引率教諭 2 名

実施日時

平成 27 年 11 月 11 日(水)
1 時間目～4 時間目(8:40～11:55)
座学:3F ミーティングルーム(8:40～9:25)

概要

- 「はぐくむ」までの往復路で実施。(所要時間 20 分程度)。
- 車内では主に A3 判のフリップを使って説明した。
- 出前講座「交通と環境のおはなし」内容についても「おさらい」として説明。
- 雨天だったこともあり、「乗り方」は一部省略して実施した。

制作物

- フリップ(17 枚)
- 時刻表(鉄道との役割の違いを知ってもらうため作成。現在配布している時刻表に全停留所を加えたものを作成)
- バス停模型



図 9 実施状況

資料内容（フリップ、手持ち資料など）



1-1 (1)

こんなバスもあります。

これはファイターズバスです。選手が移動するときに使います。選手がたくさんいても、バスなら一緒に動けます。このバスは、バス停には止まりません。



1-1 (2)

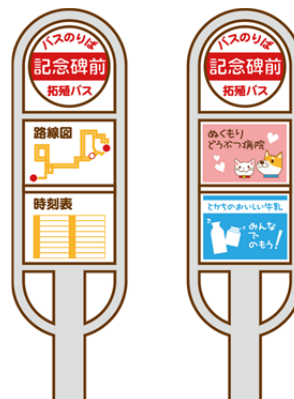
コンサドレーレのバスもあります。



1-1 (3)

これはまき（木炭、木）を燃やして走るバスです。今からおおよそ80年前に、戦争で燃料が足りなくなったときに作られたバスです。これはそのバスを再現したものです。バスの後ろに、まきを燃やすストーブのようなものがついています

図 10 制作ツール(フリップ+解説)



路線	バス停	時刻	備考
1号線	駅前	7:00	
	駅前	7:15	
	駅前	7:30	
	駅前	7:45	
2号線	駅前	7:00	
	駅前	7:15	
	駅前	7:30	
	駅前	7:45	
3号線	駅前	7:00	
	駅前	7:15	
	駅前	7:30	
	駅前	7:45	

図 11 バス停模型(両面)、時刻表

5 検討会議の開催

5-1 第1回 帯広市交通環境学習検討会議 概要

平成27年度 第1回 帯広市交通環境学習検討会議 議事録	
実施日時	平成27年6月30日(火)14:00~16:00 帯広市役所 庁舎10階 第5A会議室
出席者	<p>会長:高野 伸栄(北海道大学公共政策学連携研究部)</p> <p>委員:頼本 英一(国土交通省 北海道運輸局 帯広運輸支局) 保坂 眞紀(帯広市 市民環境部 環境都市推進課) 河瀬 清子(帯広市 市民環境部 環境都市推進課) 平野 司(帯広市教育委員会学校教育部学校教育指導室) 黒田 聖(帯広市 商工観光部商業まちづくり課) 山本 康友(十勝バス株式会社)※代理出席 小森 明仁(北海道拓殖バス株式会社) 道見 茂美(大正交通有限会社) 千葉 和也(毎日交通株式会社) 鳥本 純子(株式会社エコERC)</p> <p>進行:森田 昇吾(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課)</p> <p>事務局: 加藤 信次(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団) 岡本 英晃(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)</p> <p>山内 優雅(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課) 滝上 宏美(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課) 野崎 実(帯広市 教育委員会 学校教育部 企画総務課) 新森 紀子(一般社団法人北海道開発技術センター)</p>
	

<p>議題・ 交流意見</p>	<p>資料説明</p> <p>1. 昨年までの議論をふまえた「交通環境学習プラン」の全体像について (資料説明:省略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの国土交通大臣賞を受賞することとなった。検討会議にも関係者がおられるので尽力に御礼申し上げます。(黒田) ・ 低学年用の「乗り方資料(パワーポイント)」は作成しないのか。(高野) <p>→ 低学年は試乗ではなく座学内での講座(紙しばいやすごろく、ごっこ遊びなど)で行うことを想定している。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元一覧は教育関係者のなかでは一般的なものか。(高野) <p>→ 現場の教員には使いやすいと思う。(平野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導案は「指導のための資料」などと名称を改めたほうが混乱がない。(平野) <p>2. 平成 27 年度の出前講座について (資料説明:省略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カーボンオフセットの説明はいつも難しい。(鳥本) ・ 学年別に色づけしないと継続して実施してもらうのは難しい。(平野) ・ 「低・中・高」ではなく「1 学年」「2 学年」など学年ごとにしておく方が区別しやすいのではないか。(高野) ・ バス学習である校外学習先は提案として提示する。(事務局) ・ 交通すごろくは帯広市を2～4区画でわけて作成するとよい(各校への配慮)。また、高学年でもすごろくを受付るような形が取れるとよい。カードゲームは人気がある。出前講座を実施した学校にすごろくをプレゼントできるとよい。(平野)
	<p>3. 広報・普及について (資料説明:省略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「教員のための博物館の日」は夏期教員研修として実施されるのでアピール効果が高い。(平野) ・ ウェブサイトは関連ページに貼るバナーを設置可能。ロゴのようなものがあるとよい。(保坂) ・ 帯広市ウェブサイト内への設置場所は今後要調整となる。(事務局) <p>4. 交通環境学習に関するセミナー (資料説明:省略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 札幌市で行われる社会化教育研究大会(北海道社会科教育連盟)への参加について調整を行う。(平野) ・ モビリティ・マネジメント会議は小学校終業式にあたっているため、参加が難しい。(平野) <p>5. スケジュール・その他 (資料説明:省略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 札幌は全て先生方が自前で行う場合のプログラムとしている。帯広は出前講座として考えてよいか。(高野) <p>→ 出前講座の資料や教材をきっかけとして、先生方に独自にやっていただく</p>

	<p>ことも期待している。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に学校で実施するには「指導案」が必要となる。(高野) ・ 学校の「先生」に公共交通の状況を含め、説明する機会が重要になるのではないか。先生向けに定期的に乗ってもらうためのパスなどを配布したりするスキームがあるといいのではないか。(千葉) ・ 実際に環境問題教室をやると、先生のほうが興味をもつことがある。(小森) ・ 出前講座だけでは物理的な限界も出てくるので、普及に向けて学校の先生メインにあるような仕組みが必要になる。3年目のトライアルでは遅いのではないかと。(エコモ・加藤) ・ 出前講座のキャパシティはどれくらいだろうか。(エコモ・加藤) <p>→ 過去には年に10回程度開催した年もあった。(頼本)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校におけるコンテンツの活用事例を増やしていくという流れが必要になる。検討会のメンバーに小学校教諭に参加してもらうなど。(平野) <p>→ 教材検討にあたっては小学校教諭の参画を図っていく。また小学校への働きかけについては今後体制が整った段階で周知を図っていく予定。実施目標等と併せて平成28年度プランへの記載等を検討する。(事務局)</p>
--	---

5-2 第2回 帯広市交通環境学習検討会議 概要

平成27年度 第2回 帯広市交通環境学習検討会議 議事録	
実施日時	平成27年10月13日(火)15:00～17:00 帯広市職員会館 2階 会議室(帯広市西7条南7丁目3-2)
出席者	<p>会長:高野 伸栄(北海道大学公共政策学連携研究部)</p> <p>委員:頼本 英一(国土交通省 北海道運輸局 帯広運輸支局) 河瀬 清子(帯広市 市民環境部 環境都市推進課) 平野 司(帯広市教育委員会学校教育部学校教育指導室) 黒田 聖(帯広市 商工観光部商業まちづくり課) 長澤 敏彦(十勝バス株式会社) 小森 明仁(北海道拓殖バス株式会社) 道見 茂美(大正交通有限会社) 千葉 和也(毎日交通株式会社) 原 文宏(一般社団法人交通環境まちづくりセンター) ※爲廣氏代理 鳥本 純子(株式会社エコERC)</p> <p>進行:森田 昇吾(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課)</p> <p>事務局: 加藤 信次(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団) 岡本 英晃(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)</p> <p>山内 優雅(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課) 滝上 宏美(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課) 野崎 実(帯広市 教育委員会 学校教育部 企画総務課) 新森 紀子(一般社団法人北海道開発技術センター)</p>
議題・ 交流意見	<p>(1)「交通環境学習プラン」の実施方針見直しについて【資料1】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 教育機関との連携および目標値を加えた実施方針内容について - 第1回意見交換会の実施について(9月15日実施、報告) - 制作ツールと実施の枠組み(案)について <p>(資料説明)省略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 映像については、現段階では3学年「バスの役割」、4学年「ごみの処理と




	<p>利用」、総合において「バスの乗り方」とする予定。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施目標は、ひとつの学年での実施で「1校」として考えてよいか。(長沢) → そのように考えている。各学校で取り付きやすいテーマ・学年から実施してもらおうかと考えている。(事務局) ・ 教材ツールは、出前講座ではなくて先生方にやっていただくものとして考えてよいか。(高野) ・ 出前講座と教材ツールは別のものとして考えている。出前講座は教材ツールの足がかりとして考えている。(事務局) ・ 検討会で「教材ツールの検討」とした場合は、基本的には先生方に実施してもらおう場合のプログラムを想定しているということよいか。出前講座自体の工夫も今回の検討会で行っているということ。(高野) ・ そのように考えていただければ。(事務局) ・ 検討会、意見交換会を年3回程度の開催となっているが。(高野) ・ 基本的には意見交換会は3回だが、検討事項に応じて開催したいと考えている。(事務局) ・ 体制等のご検討をいただきありがとうございます。前回までに懸念していたのが、出前講座ベースでの実施ではマンパワーの問題があること。実績数が増えたときに対応できないことが、普及の妨げになるのではないかとということだった。出前講座を普及の手法としてもらうことは有効だが、更なる普及を図るには先生方を中心とした学習が必要であり、前回指摘をさせていただいた。ぜひこの形で推進していただければありがたい。(エコモ:加藤)
	<p>(2) 第1学年用資料(座学用)について【資料 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 座学用資料について(紙しばい案) - バスの乗り方・交通安全(案) <p>(資料説明省略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バス会社さんの意見は、現時点の紙芝居には反映されていない？(高野) ・ 今後作業がすすんでから意見をいただくことになる。(事務局) ・ 他に紙芝居を使う授業はあるか？(高野) ・ 紙芝居を授業で使うことはあまりない。しかし、道徳では場面を提示しながら子どもたちの反応を確かめながら進めるものがある。読書の代わりとして「読み聞かせ」を各学校で行っており、お母さんが持ち回りでお話しているところもある。低学年の子どもたちにとって興味深いものだと思う。(平野) ・ 出前講座について、担当者に「帯広市」とある場合は、帯広市さんだけで行う形になるのか。(長沢) ・ その形で想定している。「バスの乗り方」についてはバス会社さんにご協力をいただきたい。「担当」としているのは「座学」部分と考えていただきたい。(事務局) ・ これまでのように必ず三者が集まってやるものではない、ということよいか。(長沢) ・ 1年生の「しょんぼりバス」はどのようなイメージか。(高野) ・ マナーや安全な乗り方をテーマにしたもので、バスか運転士が「しょんぼり」する構成を想定している。(事務局) ・ これまでのように三者が講師となるのは5年生のみとなる。4年生のごみ・リサ

	<p>イクルに関連するものでは、エコ ERC さんをご担当となる。(高野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年を通して出前講座を受ける場合、テーマと担当者が被らなくなるのでもいいかもしれない。(高野) ・ 先生方にやっていただく場合も、この構成が基本になるのか。(長沢) ・ 先生方にやっていただく場合は、1単元から、既存教科の中で使得るように指導案を整えていくことになる。出前講座の流れとは異なるものがでてくる。(事務局) ・ 各学校で先生方が行う場合はバスはないので、映像などで補完できるようにすると考えていいか。(長沢) ・ 「バスの乗り方」に関しては映像を想定している。また、右側の提案にある「バス会社見学」など、現地見学を伴うメニューは、実施数に限界があるため、各学校に配布するものとは別のものとして考えている。出前講座のオプションメニューのようなもの。(事務局) ・ 座学用の教材のほかに、バスの乗り方などもそうだが、バス事業者のどの担当者も説明できるようなツールがあるとよい。先日小学校のバス学習のとき、人数が多くて立ってもらったお子さんも多く、話を聞くのが難しい状況があった。そのとき、整理券や押しボタン、燃料の話など、写真を用意して説明した。フリップのようなシンプルなものでもよいと思うが、共通した流れを再現できるものがあればと思う。(小森) ・ ぜひニーズを整理していただき、バスの車内や、乗るときに使えるようなツールを考えてもらいたい。(高野) ・ 説明時間は 15 分程度でしょうか。(事務局) ・ 行き先によるが、基本的な流れのほかに、クイズなど用意していることもある。(小森) ・ 質問は出るか。(長沢) ・ 結構出る。クイズも学年別にレベルが必要。(小森)
	<p>(3) 出前講座「まちたんけん・バスの巻(第3学年用)」について【資料 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 実施概要について(説明省略) ・ 今回の出前講座は、新しく設定した分担に基づいて行ったのか。(高野) ・ 新しい分担(運輸局)で行ってもらった。(事務局) ・ 今回の 4 年生は、まだごみ処理に関する資料が整っていない(次年度予定)なので、既存資料で実施する可能性がある。(事務局) ・ 3 年生の内容についても暫定的。(事務局) ・ 今年の出前講座の内容について、感想などがあれば。スライドはその場で講師が話す形か。(高野) ・ その場でスライドを示しながら話してもらった。(事務局) ・ すごろくの反応は。(高野) ・ 楽しかったという反応と、マスの中の表記(バスに関する豆知識)も読んでいたようだ。(事務局) ・ 今回のすごろくは帯広市の西側を盤面になっていると思うが、別の学校では新しく作ることになるか。(高野) ・ 北西部が中心ではあるが、帯広市ですごろくの「目的地」になるところは今回のもので網羅されている。基本的にはこの内容で考えている。(事務局)

- 5年生のバージョンもスライドが変わってわかりやすくなったと思う。時間内に終われるようになった。ワークシートがあるので時間調整がやりやすくなった。(鳥本)
- スライドはよくできている。いい意味で目が止まる場所がない。最後まで流れていくのでわかりやすい。子どもたちも15分話を聞けると思う。かつ、バスはすごいところがある、という意識を持つにはいい提示の仕方だと思う。帯広の特徴として駅が3つしかない、など特徴も押さえられているので、社会科としていいと思う。(平野)
- 話が逸れるが、よくローカル線廃止のときにこういった点を強調する。乗り物(バス停)までの距離が短くなるのがバスの「売り」でもある。一方で料金は若干高くなるのが普通。(高野)
- すごろくもよくできていると思う。一点、今回啓北小学校で実施したのでこの盤面(小学校の位置が入っている)だと思う。(平野)
- 今回実施した学校の先生から、自分の学校が入っているのがよいとお話をいただいた。すごろくは、基本的に出力したものにラミネートをかけるものになると思うので、各学校名を表記することは可能。今回は試作版なので北西部が中心になっているが、これをベースに検討する。(事務局)
- ご存知の方もいると思うが、この「交通すごろく」はもともと、サイコロを振るときに「のりものカード」をひき、サイコロの数自体を可変にしている。のりものによってCO2の排出量が変わり、最終順位は到着順と、CO2の排出量で競うもの。今回は学年的にCO2の要素を省いているが、本来は毎回「なにをつかって移動するか」を考えてもらうのが目的。高学年でそのルールを取り入れるのか。(高野)
- 今のメニューでは高学年のすごろくはない。イベントや総合学習に取り入れることは考えられる。(事務局)
- 毎回バスを持ってきていただいて大変だと思う。11月の出前講座のときに、バスのツールは試作版を作れるとよい。(高野)
- 優先席の話はしますか。(高野)
- している。なぜ色が違う椅子があるか、とい問いかけをしている。(小森)
- 優先席のことはわかっているようか。(平野)
- クイズ形式で用意しておくのはいいと思う。(道見)
- よくやるのが「バスに鏡はいくつあるか」というクイズ。いろいろな形の鏡、役割があることを説明する。(小森)
- 興味を持ってもらうこと。将来のバスの運転士さんを確保することにつながるかもしれない。(高野)
- たとえばお子さんが朝起きて、学校に行くのにバスに乗るとすると、私たちはその前に準備をしている、という部分。真っ暗な中で点検をしているようなことを紹介できたらいいと思う。(道見)
- 洗車は毎回?(高野)
- 基本的に毎回行っている。(長沢)
- ぜひそういったことも紙しばいなどで紹介してほしい。(高野)
- タイヤのチェックやオイルなど、日常整備は運転士。点検した結果問題があれば整備士が行っている。(長沢)
- 飛行機なども会社によってはパイロットが行っているところがある、と新聞で見た。意外な部分かもしれない。(高野)

	<p>(4) 交通環境学習に関するセミナーについて【資料 4】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 北海道社会科教育研究大会(札幌大会)について - 札幌らしい交通環境学習フォーラムについて(参加報告) <p>(説明省略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の札幌のフォーラムでは、ポラリス(市電)の車内で行った。(事務局) ・ 社会科教育研究大会の内容は小学生が対象か。(高野) ・ いくつか公開授業があり、公共交通は3年生で実施する予定。(事務局) ・ 路面電車をループ化することにより、自転車と物流(トラック)の問題が出ている。路肩、歩道側を走行できなくなるため。社会的な影響も大きな話題となっている。(高野) ・ 市電が通過するときには優先的に信号を変えるなどの取組みもあるのか。(道見) ・ 交差点では赤信号になることもあるが、優先的にはなっている。(高野)
	<p>(5) 教員向け資料の検討ならびに広報について【資料 5】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 教員用案内資料(指導案)について - 教育機関向け研修会での広報について <p>(説明省略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小冊子は、教材ツールについて周知するためのもの。フォーラムの実施で内容について事例をまじえて広報するという内容。校外学習についてバス学習について記載すると、対応的に大変な気もする。(高野) ・ フォーラムの実施については、札幌市では事業最終年の翌年に実施している。公開授業とパネルを100名くらいの先生が参加して実施している。驚いたのは意見がたくさんあったこと。そして必ず、修正点を必ずあげておられること。まずは先生方を集める仕掛けについては、平野先生を中心に検討していただくことになると思う。(高野) ・ 実際に難しいところ。札幌市のような規模では、来年すぐに、というわけにはいかない部分がある。少なくとも来年提案し、学校の都合と合わせ、その先生が何年生を受け持っているかなど、2年くらいの計画を立てる必要が出てくる。この検討会議のような規模なら来月、ということも可能だと思う。(平野) ・ 札幌市のフォーラムは最終成果としての内容だが、今仰っていただいたように、15人くらいの先生方に集まっていただき、実践例をふまえた討議の場を持たせていただくことを考えている。勉強会などのほうが馴染みがあるかもしれない。(事務局) ・ その規模であれば、今回の意見交換会のメンバーで実施できるかもしれない。(平野) ・ 札幌市の場合は、ここにくる前段として、社会科の先生方との長いつながりがあって実施できているところがある。帯広の社会科の研修会などの場はどうか。(事務局) ・ 帯広にも社会科研究の場があるので、そこで行うことは可能。(平野) ・ 予算の問題もあるかもしれないが、場合によっては29年度の実施も想定したほうがいいのかも。(高野)

5-3 第3回 帯広市交通環境学習検討会議 概要

平成 27 年度 第 3 回 帯広市交通環境学習検討会議 議事録	
実施日時	平成 28 年 2 月 23 日(火) 14:30～16:30 帯広市役所 10F 5B 会議室
出席者	<p>会長: 高野 伸栄(北海道大学公共政策学連携研究部) 委員: 頼本 英一(国土交通省 北海道運輸局 帯広運輸支局) 河瀬 清子(帯広市 市民環境部 環境都市推進課) 平野 司(帯広市教育委員会学校教育部学校教育指導室指導主事) 長澤 敏彦(十勝バス株式会社) 小森 明仁(北海道拓殖バス株式会社) 千葉 和也(毎日交通株式会社) 鳥本 純子(株式会社エコERC) 爲廣 正彦(一般社団法人交通環境まちづくりセンター)</p> <p>進行: 森田 昇吾(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課)</p> <p>事務局: 加藤 信次(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団) 岡本 英晃(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)</p> <p>山内 優雅(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課) 滝上 宏美(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課) 澤口 智邦(帯広市 教育委員会 学校教育部 企画総務課) 新森 紀子(一般社団法人北海道開発技術センター)</p>
	
議題・ 交流意見	<p>(1)教育プログラムの検討状況について【資料 1】 (資料説明)省略</p> <ul style="list-style-type: none"> - このプログラムの中に、基本的にバスの実車を用いた体験は含まないか。(長沢委員) - 出前講座と組み合わせるパターンはあるが、既存教科授業での実車は想定していない。(事務局) - 応用としての取り扱いで、その場合は2コマを考える。(高野会長) - 出前講座の低学年では「バスの乗り方」をシミュレーションする内容になっている。そこでシミュレーション、練習したことを実車につなげたいとお考えの先

生はいらっしゃるかもしれない。また高学年は従来通り 45 分間の座学となるので、体験学習でバスの実車場面は出てくる。またその場合には校外学習の提案として、バス事業者さんの見学やバスの洗車体験のようなメニューも提案できる。交通に関連する提案を考えている。(事務局)

- 学校側の要望によって対応したい。(長沢委員)
- 今年の出前講座の実施状況を見ると、それぞれ校外学習がある。この部分が乗車体験との組み合わせになっていく。今年実施したものについても乗車体験を行っていることになるが、学校側としてはどうか。(高野会長)
- 見学があれば2コマないし見学内容によっては3コマになる。(平野)
- 実施の枠組みについて。1～3 学年は「自主実施」と「出前講座」のテーマが被っているが、この関係性は。(高野会長)
- 1学年については自主実施と出前講座の教材を共通にしている。出前講座は自主実施用教材の PR の場としても考えている。学校側のカリキュラムとしても、同じテーマで自主実施と出前講座を行うことは考えにくい。出前講座でお申し込みの場合は「教科としても実施できます」という説明をさせていただきたい。(事務局)
- 出前講座では、紙芝居 15 分、体験 30 分。自主実施では 45 分を紙芝居としているが、この構成の違いは何か。(高野会長)
- 授業の場合は先生が指導案に基づいて「考える」場面を組み込んでいく。出前講座では紙芝居を「よむ」、そしてバスの乗り方を体験してもらう、という違い。(事務局)

(2)教材ツールについて【資料 2】

(資料説明)省略

- 運転士のインタビューは室内ではなく、運転席にした方が「仕事」が判りやすいのでは。また、インタビューする人の声も入れて会話風になると自然になるかもしれない。(高野会長)
- 子どもがインタビューする形もよいが、人選が難しいか。(鳥本)
- 動画部分は 3 分程度を想定している。お話いただく内容で、現在の内容過不足があれば伺いたい。(事務局)
- 先生方と話す中で、やはり一単位として 5～6 時間の授業として組むのは難しい。今ある教材の中で、たとえば「まちたんけん」の最初の取っ掛かり、または単元のあとで「では帯広市はどうだろう」という「発展」の 1 時間の方が実際に使うことができるだろうと。45 分一単位で考えている。今見ていただいたように、1 年生で「環境」「交通」を結びつけるのは非常に難しい。それであれば「公共性」ということで「バスの乗り方」を道徳で扱ってもらった。そして 2 年・3 年は、部分的に使えるような教材として想定している。「公共交通と環境」という流れとしては物足りない部分があるが、実際に「使えるかどうか」が問題になってくる。そういう形で、すべての資料をセットにするのではなく、個別に使うことを前提とした形になっている。いわば素材を提供する。このスタンスが 1～3 年生については適当ではないかと思う。皆さんの意見をお聞きしたい。(平野委員)
- 紙芝居は「子どもが悩むところ」が組み込まれていると思うが、絵の力量にも左右される部分。(高野会長)
- 設定、女の子の名前については。十勝のカチをひっくり返して「チカちゃん」

	<p>など。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2年生という設定については、来年につなげることと、席をゆずられる幼児との年齢差が不自然にならないように。(事務局) - おそらく1年生だと「ゆずられる」方になる。ゆずる相手としてはお年寄りか自分よりもっと小さい子は意識していると思う。(平野委員) - 道德なので、いろいろな価値観を話さないと道德にならない。ひとつの価値観ではない状況がよい。「譲らない」「他の若い人が譲ったらいい」という選択肢も出てよい。(平野委員) - バス会社さん的には2年生の子が席をゆずるのはどうか？(高野会長) - 2年生の子自体あまり乗らない状況はあるが…。(長沢) - テレビのドラマやコマーシャルで、バスの中のシーンは意外と多いが、都会と帯広の違いかもしれないが、違いがある印象。都会では公共交通がないと生活できない環境。帯広は逆。ヒロくんの実態感、席をゆずるという設定もずれがあるように思う。しかし、道德で取り上げてもらうことでのバスの存在感がある。(小森委員) - 今の新しいバスはユニバーサル車両などの関係で座席数が少ないので、満員とは言わなくてもありえないことはない。普通の状態のバスでもいいのか。(長沢委員) - 整理券は、学校で出力・カットして使えるものをデータでつけては。(鳥本) - 整理券をとるのは、運賃の判断をするのに必要。(高野会長) - 整理券をかける椅子に箱をおき、整理券を入れておく手順を加えるなど。(事務局) - 整理券は実際より大きめがよい。(高野会長) - 大きさは違っていいが、紙面は同じものになっているとよい。(平野委員) - 運賃表はひらがなにしてみたが、漢字のままのほうがよいか。(事務局) - 低学年でも、実際の運賃表を見たときに違和感があるので、漢字でよい。おそらく読めないが、文字の形を覚えたり、先生のことばなどから判断はできると思う。(平野委員) - 2年生の資料については。(高野会長) - 2年生はバスで行けるところ、3年生は地図学習と仕事の2パートから構成している。(事務局) - 2年生の中に「環境」の要素を入れられないか。CO2ではなくていいと思うが、燃料消費量など。(高野会長) - 3年生の出前講座試作版資料で用いたものが使えるのではないか。同じ人数を運ぶのに必要な台数を比較したもので、排気ガスがそれだけ出ることを示している。表現は変えた方がよい。(事務局) - 3年生の「参考」写真も重要だと思う。(高野会長) - バスの仕事を紹介するもので、先生用には各写真に状況を説明するキャプションを用意する。(事務局) - タクシーとクルマを比較する場面ではタクシーはいらないのではないか。タクシーがクルマと同じ人数では違いがわかりにくい。ジャンボタクシーでもよいし、十勝では公共交通のひとつであるので、違いを示した方がよい。(爲廣委員) - 2年生のバス停のスライドがあるが、もう少し広角で、施設とバス停を一緒に入れたものがよい。(平野委員)
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> - 対象の施設の種類のよいか。(事務局) - 公共施設としては妥当だが、実際に子どもが行く施設としては長崎屋かもしれない。(平野委員) - はじめの「ひとりで行く」ところが長崎屋という子は多い。(河瀬委員) - 動物園はいいとして、2年生だと図書館、記念館よりは長崎屋の方が親しみがある。(平野委員) - 本当に小さい子は別として、実際には子ども同士でバスに乗る状況の方が考えられる。親御さんと一緒だとクルマを使うことが多い。目的は映画か。ゲームセンターが多いのではないか。その行き先としては長崎屋になると。(小森委員) - 子ども同士で出かけるとなったとき、親はバス停がどこにあるかわからず、事前に見に行ったりする。(河瀬委員) - 市の資料として長崎屋を出すことは問題ないか？名前をテキストで入れずに「大きいお店」等とするなら問題ないと思うが。(高野委員)
	<p>(3)「バスの乗り方」資料について【資料 3】 (資料説明)省略</p> <ul style="list-style-type: none"> - バスの乗り方など、事業者さんが説明をするときに共通の資料があったらいいのではないかとということで、11月の出前講座で試行版を利用いただいた。(事務局) - 乗り方の動画は学年別に異なるのか。(高野会長) - キャプションなどが変わる。また低学年は運賃や時刻表に関するところは省略する予定。(事務局) - 実施してみて、どうだったか。(高野会長) - 人数が多いとやはり話をきいてもらうのは難しいなというのが実感というのがあるが、共通の資料があると取組みとしてよいと思う。(小森委員) - フリップのサイズは。(高野委員) - サイズはいいが、ラミネートなので持ちやすさで工夫が必要だと思った。(小森委員) - よくできていると思った。模型や時刻表などの資料があると興味を持つ。(平野委員) - バス停の模型は食いつきがよかった。物が出てくると注意が向くので、こういったアイテムは重要だと思う。(小森委員) - 最近では高速バスなど2列、3列シートも出ているが、バスの種類の中に紹介してもいいかもしれない。意外に大人でも迷うのは、おつり。自分でくずすか、おつりが出るかなど。今回のシートにもあるが、この説明は必要だろうと思う。(高野委員) - おつり、両替で言うと、先ほどの長崎屋のゲームセンターの両替機になじみがあるなら、千円を入れると100円が10枚出る。しかし、バスの場合は出てくる硬貨の種類が違うことも特徴として出せるかもしれない。(小森委員) - 子どもにしてみると、両替でなぜ10円が出るのか不思議に思うだろう。バスならではのことで説明があるとよいと思う。(高野委員) - さきほどの点検の話などもできるかもしれない。(高野委員) - これまで各事業者で説明を行っていたため、おそらく内容がかなり違ってい

	たと思われる。(長沢委員)
	<p>(4)交通環境学習に関するセミナーについて【資料 4】 (5) 広報について【資料 5】 (資料説明)省略</p> <ul style="list-style-type: none"> - 28 年度のフォーラムは大規模なものではなく、自主実施の資料を使って公開授業と討議を社会科の先生を中心に実施したいと考えている。教育機関との調整を図って実施する。(事務局) - 情報についてはエコモ財団ウェブサイトで報告書が各年度ごとに公開されている。(高野会長)
	<p>(6)「帯広らしい交通環境学習プラン」の見直しについて【資料 6】 (7)スケジュールについて【資料 7】 (資料説明)省略</p> <ul style="list-style-type: none"> - 各学年における自主・出前講座、体験学習の関係性について、将来的な役割分担も含めてプランの中で明示していただきたい。(高野会長) - 出前講座を実施する立場として、今後も出前講座のニーズはそれなりに続くと思われるが。(高野会長) - 出前講座自体を増やすつもりはなく、年間 5 件程度としている。体験学習としての需要は当面あるが、自主実施に移行していきたいと考えている。(事務局) - 自主実施に向けて、各学校の先生にどんな投げかけを想定されているか。(長沢委員) - 取っ掛かりが必要なので、出前講座が入り口。昨年の出前講座を活用した自主実施はでき、また異動のある先生は次の学校で広めていただきたい。そういう意味では効果のある資料でなければならない。学校側が求めるのが体験学習であるとしたら、出前講座の機会は当面なくなることはないと思う。(平野委員) - 今後も事業者さんの協力はいただくことになる。(高野委員) - 校外学習を別枠として考え、もし見学としてバス見学への要望がある場合は、対応は可能だろうか。そうだとすると学校側のニーズとしても広がりが出てくるのではないか。(平野委員) - 授業に対する効果の把握についても考えておくと、事業者さんが参画している中ではプランとして有益ではないか。ただし、これは簡単なものではない。(高野会長) - これまで実施した学校には児童に実施前後でアンケートを取っているが、児童の定量的な行動転換などを把握するには至っていない。(事務局) - 自主実施実績については、使いやすさを優先するため、今回全学校に資料を配布し、実践にあたって申請などは設けない。そのため逐次実践数を押さえることはできないが、年度末等に実践したかどうかアンケートを行うことを想定している。(事務局) - そういった内容についてもプランに入れておく方がよい。(高野会長)

5-4 意見交換会

平成 27 年度 第 1 回 帯広市交通環境学習検討会議〈意見交換会〉議事録

実施日時	平成 27 年 9 月 15 日(火) 16:45～19:00 帯広市役所 庁舎 7 階 会議室
出席者	<p>メンバー:</p> <p>平野 司(帯広市教育委員会 学校教育部学校教育指導室) 片山 剛(帯広市立明星小学校 教諭) 島 拓史(帯広市立稲田小学校 教諭) 保志 元輝(帯広市立森の里小学校 教諭)</p> <p>事務局: 山内 優雅(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課) 滝上 宏美(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課) 野崎 実(帯広市 教育委員会 学校教育部 企画総務課) 新森 紀子(一般社団法人北海道開発技術センター)</p>
議題・ 交流意見	<p>資料説明(省略)</p> <p>映像コンテンツ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バスを使う場合があるのは「まちたんけん」における 2 年生だが、映像で見ると いうよりは、自分で体験することが主眼におかれる。映像を見て自分の行動 に関連づけることは難しい。(島) ・ 内容的に「乗ってみよう」というものであればよいと思うが、環境に関わることは まったく意識も、基礎的な知識もない。そもそもバスの燃料がガソリンか重油 かという思考は難しく、そのあたりをねらいにするのは難しい。(片山) ・ 帯広の子はバスに乗っている経験が少ないと思う。今年 3 年生でバス初めて 乗った子が 10～15 人くらいいた。保護者の方も乗ったことが少なく、都市間 バスの方が馴染みがあるかもしれない。(保志) <p>紙しばい:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年生であればまずは「のりもの」に触れる。排出ガスの性質までいかない と環境とバスが結びつかない。(事務局) ・ 家にはクルマがあり、ガソリンスタンドへ行くのも見ているが、結び付けられる かどうか。(島) ・ 道徳としては「バスの乗り方」で、マナーを守らない人にバスくんが怒ってい る…という物語だと授業として想定できるし、1・2年生であればすんなり飲み 込める。(平野) ・ 学習のながれとしても「あいさつをしよう」「さわがない」などのマナーが先にあ る。いきなり燃料の話は来ない。環境の話は低くても3・4年生からになる。(保 志) ・ 1年生でルールやマナー、2年生でバスの種類、という段階が出てくる。(島) ・ 道徳としてはほしい。(島)

- ・ まちたんけんの中でもバスが通っているところは見ているので、そこで意識付けをするなかで、教科横断的な部分があってもいい。(片山)
- ・ まちたんけんの活動は 1～3 年生とあるが、段階がある。1年生は学校の周り。2年生で校区。3年生で範囲が広がり、家や店がなぜここに密集している？地図記号、などの捉え方をしていく。(平野)
- ・ 1・2年生は道徳的な観点にバスを活用するのが学校として活用される可能性がある。道徳はしぼりが逆でない。教科の区分として、1・2年生には総合がなく、特別活動になり、「交通安全」は道徳の範囲になる。(平野)
- ・ 1時間で完結する交通安全だと、学校側の負担感も少ない。(保志)
- ・ 休み時間に「交通すごろく」なども興味をもってもらいやすい。(島)
- ・ 国語の教材になるようなテキストになれば5～6時間の実施の可能性はあるが、他の教科では難しい。(島)

すごろく:

- ・ 運賃に関するクイズ「半分こ」の概念は 1・2 年生は難しい。「2つあるものを1こずつ」はわかるが、「1つのものを2人で」という概念は難しい。(島)
- ・ あまり難しく考えなくてもいいとも思う。すごろくをやること自体を面白いがる。コマを動かす、サイコロを振るというアクションが楽しい。色や写真に凝った方がいい。3・4年生になれば、選択するなどの作戦部分があるといい。また、自分が知っている建物の写真があると興味がわく。(平野)
- ・ 位置関係は正確にする必要があるかもしれない。帯広の場合は動物園と記念館がまとまっているので違和感を感じる子がいる。(島)
- ・ 札幌のすごろくは修学旅行前に使いたい。(島)
- ・ 帯広であれば東・西方面に分けるなど、学校のそばが具体的にわかるものがある。(平野)
- ・ すごろくはルールが複数ある。ふりだしからあがりか一直線のもの、ミッションカードで目的地を経てゴールを目指すもの。さらに、のりものカードの選択で二酸化炭素の量を勘案した順位とする。(事務局)
- ・ 大きさがポイント。大きければやってみたいと思う。中だるみするので、追加ルールがあるといい。たとえばバスカードを1枚だけ配布しておき、あるバス停まで行くとそのカードで乗り継ぎができるなど。(島)

平成 27 年度 第 2 回 帯広市交通環境学習検討会議＜意見交換会＞議事録

実施日時	平成 27 年 11 月 16 日(月)17:00～19:00 帯広市役所 庁舎 7 階 会議室
出席者	<p>メンバー:</p> <p>平野 司(帯広市教育委員会 学校教育部学校教育指導室) 片山 剛(帯広市立明星小学校 教諭) 島 拓史(帯広市立稲田小学校 教諭) 保志 元輝(帯広市立森の里小学校 教諭)</p> <p>事務局: 山内 優雅(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課) 滝上 宏美(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課) 野崎 実(帯広市 教育委員会 学校教育部 企画総務課) 新森 紀子(一般社団法人北海道開発技術センター)</p>
議題・ 交流意見	<p>(資料説明)省略 <紙しばい></p> <ul style="list-style-type: none"> - 少し前までの道徳の主流は「なぜあの時、そうしなかったんだろう」というもので、前向きなものに変えていこうという動きがあり、この終わり型方はよいと思う。(島) - 擬人化した動物と人間の扱いは、2学期以降なら人間の方がいい。動物の方に関心が高い時期ではある。(保志) - 子どもに考えさせる場面の絵については吟味が必要。道徳なので、子どもからは一様ではない回答を引き出したい。(平野) - 運転士さんからのお願いの形でマナーを語ってもらうなど。どんな困った場面があるかは、実際の現場の人ではないと判らない。(島) - 運転士からのメッセージビデオを素材として用意しておく方法も考えられる。(島) - 今後、出前講座から自主実施に移行していきたいと考えている。(事務局) - 実際に現場側の使用感としては、全て決めたパッケージよりも、素材集と、提案としての指導案を提示する形が望ましいと思う。(平野)

平成 27 年度 第 3 回 帯広市交通環境学習検討会議＜意見交換会＞議事録

実施日時	平成 28 年 2 月 8 日(月)17:30～20:00 帯広市役所 庁舎 7 階 会議室
出席者	<p>メンバー：</p> <p>平野 司(帯広市教育委員会 学校教育部学校教育指導室) 片山 剛(帯広市立明星小学校 教諭) 保志 元輝(帯広市立森の里小学校 教諭)</p> <p>事務局：山内 優雅(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課) 滝上 宏美(帯広市 商工観光部 商業まちづくり課) 新森 紀子(一般社団法人北海道開発技術センター)</p>
議題・ 交流意見	<p>意見交換内容</p> <p>◎ 教材ツールの制作について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年の「バスの乗りかた(のりかたごっこ)」については、模型は保管・移動が煩雑になるため、簡易な体験ツールでよい(機材実物大のラミネートシートなど)。 ・ セッティングや進行の手順書を用意する。 <p>◎ 1学年用資料について</p> <p><紙しばい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの心の動きに合わせてカットの変更。 ・ 主人公と席をゆずられる幼児との差をつける→2学年の設定とし、幼児1名を乳児に変更する。「席をゆずる」「かばんをよける」「ゆずらなくていい」など、いくつか回答が出るように幅を持たせたい。 <p><指導案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 価値項目の追加、展開の見直しを行う。 ・ 投げかけ先を「ヒロくん」ではなく児童本人に向ける。 <p>◎ 2学年用資料について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「帯広の施設」を発言してもらい、「どうやって行くか」からバスに結びつける。(動物園、児童会館、百年記念館、グリーンパーク、帯広駅) <p>◎ 3学年用資料について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前半の航空写真～地図の流れは、現行の教科でそのまま使うことができる。前半：地形・地図の話、後半：バスの仕事に分けると使いやすい。 ・ 「バスの仕事」の導入を「人を乗せる仕事(バス、タクシー、列車)」とする。 ・ 「バスの仕事」については、動画ではなく、写真素材の方が使いやすいのではないか。 ・ バス利用者の声を加える。そのとき、良い面と同時に「弱い面」も取り上げたい。良い：クルマがないので便利。弱い：バス停までちょっと歩かなければならない。等 ・ バスの運転士さんからのコメントは、「〇〇しないでほしい」ではなく、「あいさつされてうれしかった」など、良いことを話してもらおう。 <p>◎ フォーラムの実施に向けて</p> <p><H28年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ①公開授業、②討議の計90分程度で想定する。 ・ 参加人数を20～30名程度で想定する。

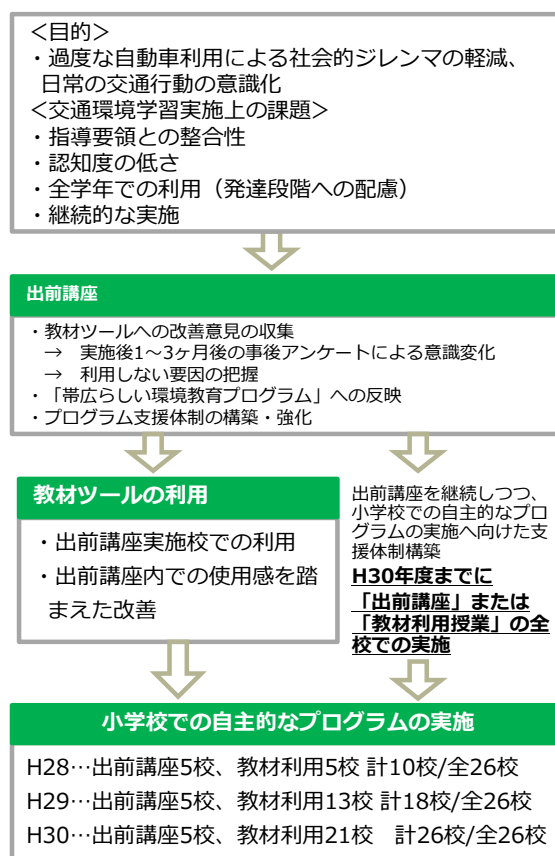
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平日開催のため、帯広市教育委員会の後援を取る。 <p><H29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ①講演、②公開授業(または模授業・提案)、③ワークショップ、計120分程度で想定する。 ・ 帯教研の社会科での実施を検討する(地域教材の作り方など) <p><H30年度以降></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模な勉強会を継続的に実施し、実践メンバーの増加や、内容更新など情報共有を図る(60分程度)。
--	--

6 帯広市交通環境学習プランの検討

小学校での継続的な実施に向けて、以下の方針でプランの見直しを行った。

- (1) 帯広市が目指す「交通環境学習」の将来像を明確化
 - ・ “出前講座”と“教材を使った授業”のH28～H30の実施校数を目標値として設定する。
- (2) 教育機関との連携強化
 - ・ 教材検討にあたり、現任教諭3名に協力を依頼し、作成段階からの意見交換及び授業での試用をし、検証を行う。
 - ・ 出前講座を実施した学校の教諭に、教材の試用を依頼し、使用感等の検証を行う。
- (3) 教員向けのアプローチを追加
 - ・ 教員が自ら授業の中で交通環境学習に取り組むにあたっての資料を作成。
 - ・ 教育委員会が実施する教員向けの研修等における、教材を使った授業や出前講座の実施等PR機会の検討。

表 5 交通環境学習の今後の流れ



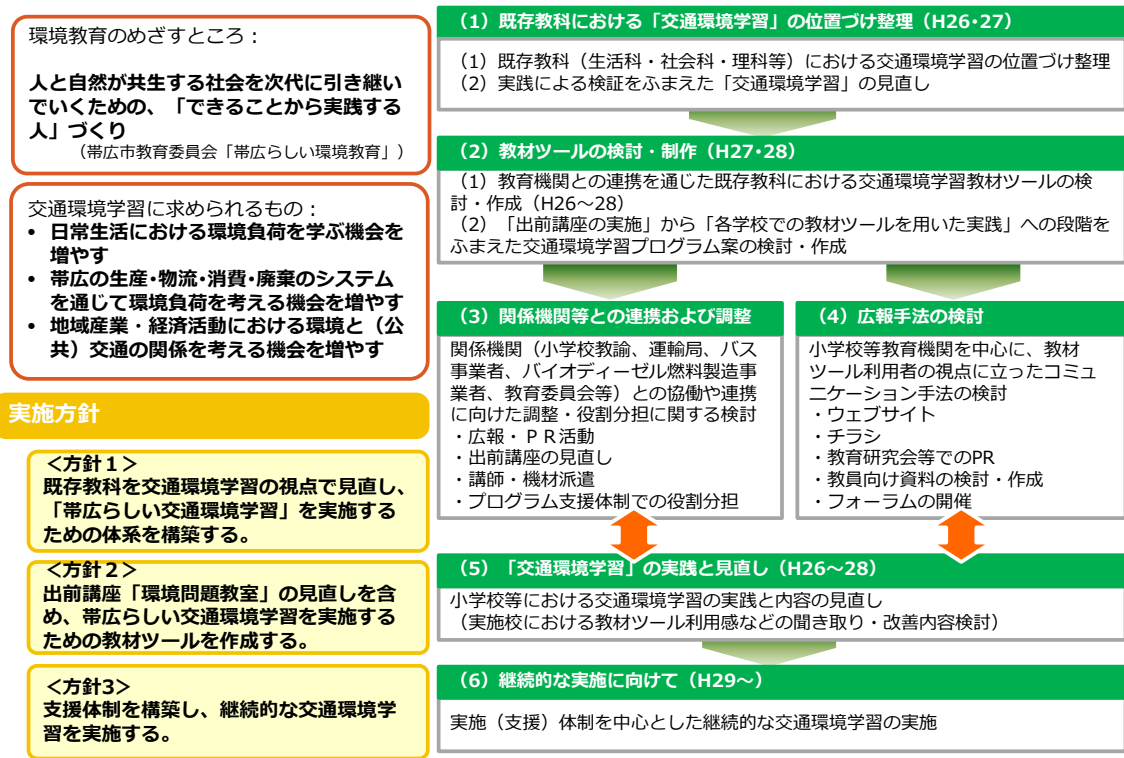


図 12 帯広市交通環境学習プランの概要(見直し版)

7 今後のスケジュール

平成 28 年度は、27 年度に整理した内容に基づき、以下のスケジュールにより各検討項目に取り組む予定とする。

本事業は「出前講座の実践」と「教育現場での個別の教材利用」の 2 点を中心としたコンテンツ制作・見直しを柱とするため、平成 28 年度においては出前講座の実践に向けた働きかけを実施しつつ、教育現場での個別の教材利用を促進していくことを予定している。

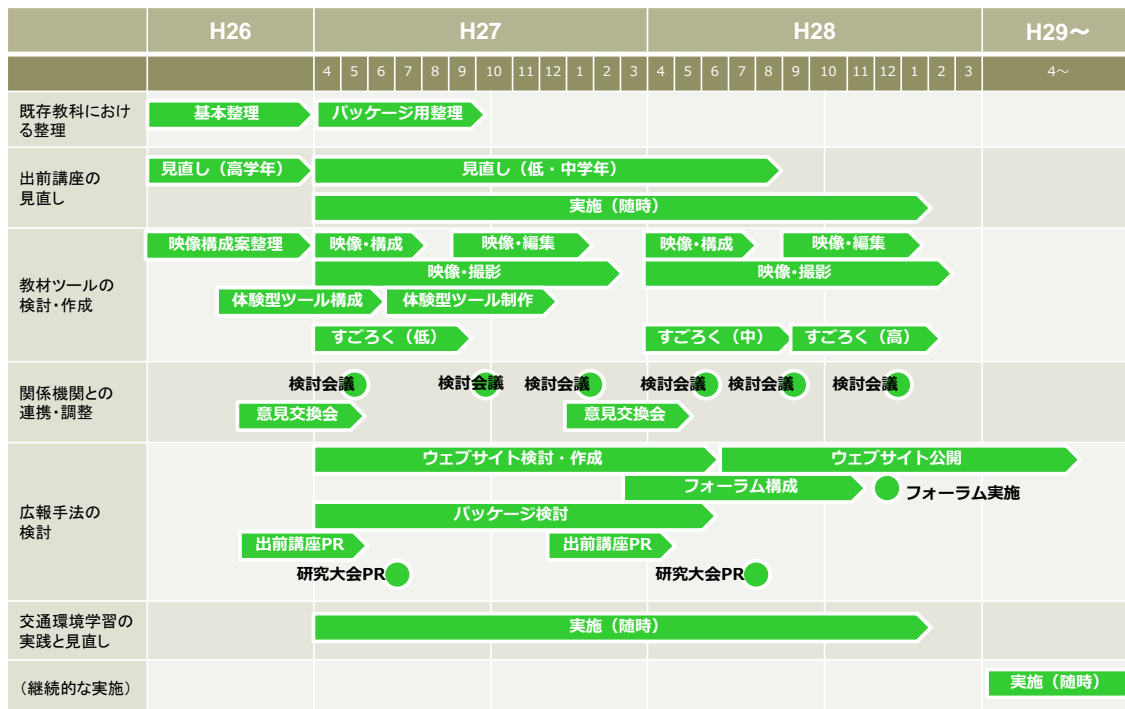


図 13 スケジュール

<資料編>

<資料 1 >平成 27 年度 帯広市交通環境学習プラン

平成 27 年度 帯広市交通環境学習プラン

平成 27 年度 帯広市交通環境学習プラン

平成 28 年 2 月

帯広市

1	はじめに.....	1
2	帯広市交通環境学習プラン.....	2
2-1.	帯広市交通環境学習プランのめざすところ.....	2
2-2.	交通環境学習プラン.....	6
2-2.1.	既存教科における「交通環境学習」の位置づけ整理.....	6
2-2.2.	出前講座(環境問題教室)の見直し.....	1
2-2.3.	教材ツールの検討・制作.....	2
2-2.4.	関係機関等との連携および調整.....	3
2-2.5.	広報手法の検討.....	4
2-2.6.	継続的な実施に向けて.....	4
2-3.	スケジュール.....	5

1 はじめに

今日、私たちの暮らしと、クルマ利用を始めとする交通とは切り離すことのできないものとなっています。なかでも自家用車の普及は私たちの日常において大きな恩恵をもたらしてきました。その一方で、過度な自動車利用が様々な問題をもたらしており、近年その影響が顕在化してきていると言えます。

例えば、公共交通の衰退・利用者減少は全国的に拍車がかかっており、帯広市においても、路線バスの利用者は減少し続けています。そして、このような公共交通の衰退は将来の高齢者層の増加に伴う移動手段の確保という面でも、深刻な問題になってくると考えられます。

また、自動車は地球温暖化の要因である温室効果ガスを大量に排出してしまうという問題も抱えています。この他、交通事故リスクの増加や、中心市街地の衰退にも少なからず影響を及ぼしているものと懸念されています。

このように、私たちの快適で便利な生活は、その反面、環境負荷をはじめとした「なにかしらの負荷」を伴うことが少なくありません。これは、個人的または短期的な利益追求が社会的または長期的な利益の損失を生んでしまうという「社会的ジレンマ」として、多くの社会問題に共通していることと言えます。つまり、交通や環境といった身近なことの現状や課題を正しく把握し、考えていくことは、ひいては社会の様々な問題に共通する「課題」に気づき、自ら考えるきっかけになると言えます。

この「帯広市交通環境学習プラン」は、以上の認識に基づき、日常生活における環境負荷といった問題を、「交通」と「エネルギー」という身近なテーマを通じて取り上げることを通じて、地域、ひいては将来といった広い視野において環境を捉える、ひいては社会全体のことを捉えることを目指すものです。

なお本計画は、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受け、平成 27 年 2 月に帯広市が作成したものです。

(内容改訂:平成 28 年 2 月)

2 帯広市交通環境学習プラン

2-1. 帯広市交通環境学習プランのめざすところ

帯広市は「環境モデル都市」の選定を受け、住・農・食・エネルギー・まちづくりとの調和を目指した「循環型・環境保全型の地域づくり」を行うために、「環境モデル都市行動計画」の下に、「住・緑・まちづくり」「おびひろ発農・食」「創資源・創エネ」「快適・賑わうまち」「エコな暮らし」といったテーマを設けて様々な取り組みを展開している。

教育の分野では平成 23 年に「帯広らしい環境教育プログラム」を取りまとめ、家庭・学校・地域で実施可能な環境教育の普及に取り組んできた。本プログラムは全学年を対象としており、「自然・動植物」「水」「農業」「その他」の分類において、「実感」「理解」「実践」の各段階を位置づけたメニューを提供している。

その中で交通と環境に関するプログラムとしては、平成 19 年より、高学年(4・5・6 年)向けの 2 単元(90 分)の枠組みで出前講座「環境問題教室」を行ってきた。プログラム開始以降、年間 3～9 校程度の実施を行ってきたが、帯広市が行ったヒアリングでは、学校現場から、「単元数を限定しない(1 単元から実施できるもの)」「低学年を対象としたもの」など、利用範囲・選択肢を広げたプログラムへの要望があることが明らかとなっている。

これらのことから、本プランにおいては、「帯広らしい環境教育プログラム」の枠組みにおいて、小学校全学年を対象とした教材ツールならびに、出前講座以外でも継続的に取り組めるためのプログラムの提供に向け、関係機関と連携して取組を推進する。

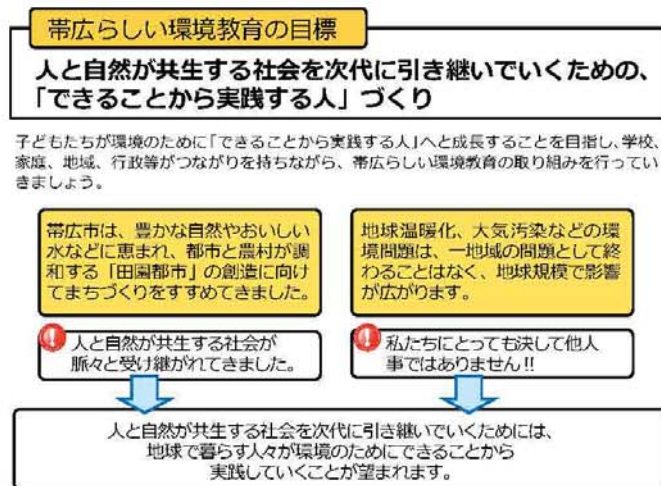


図 1 帯広らしい環境学習の目標(帯広市教育委員会資料より抜粋)

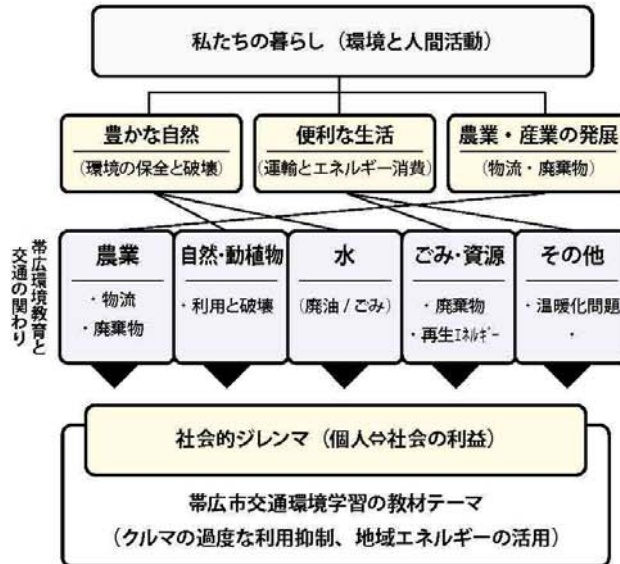


図 2 交通環境学習の背景と学習目標

(1) 計画の期間

本計画の期間は、平成 27 年度から平成 29 年度までの 3 年間とする。ただし、計画期間中であっても、教育環境や社会的状況の変化などを踏まえ、「帯広市交通環境学習検討会議」において協議を行い、必要に応じた計画の見直しを行う。

(2) 計画の対象

本計画の対象は帯広市内の小学校 1～6 年生の児童ならびに教諭とする。ただし、イベント等の機会において一般市民を含むものとする。

(3) 計画の基本方針

より広い範囲で継続的な交通環境学習の実施と活性化を目指し、次の 3 つの基本方針に基づき、計画を推進する。

基本方針	
【方針 1】	既存教科を交通環境学習の視点で見直し、「帯広らしい交通環境学習」を実施するための体系を構築する。
【方針 2】	出前講座「環境問題教室」の見直しを含め、帯広らしい交通環境学習を実施するための教材ツールの検討および作成を行う。
【方針 3】	交通環境学習の支援体制を構築し、継続的な実施を目指す。
→ 取り組みやすい学習プログラムによる交通環境学習の活性化を目指す。	

帯広市交通環境学習プランの概要を以下に示す。交通環境学習の学習目標への到達を目指し、段階的にツールと広報の運用を行う。

プログラムは大きく「自主実施」と「出前講座」に分類する。プログラム内容は既存教科に関連づけているが、教育現場への浸透を促すため、従前から実施している「出前講座」を教材紹介の場として位置づけ、実施の拡大を目指していく。そのため、当面は小学校における「自主実施」と「出前講座」による教材提供を並行して行い、公共交通と環境をテーマとした学習が、各学年で経年的に実践されることを目指す。なお「自主実施」用の教材は、授業1時間で行えるものとし、教科学習の地域教材として位置づける。また「出前講座」については、従来の「環境問題教室」の内容を各学年に対応した内容を整備する。

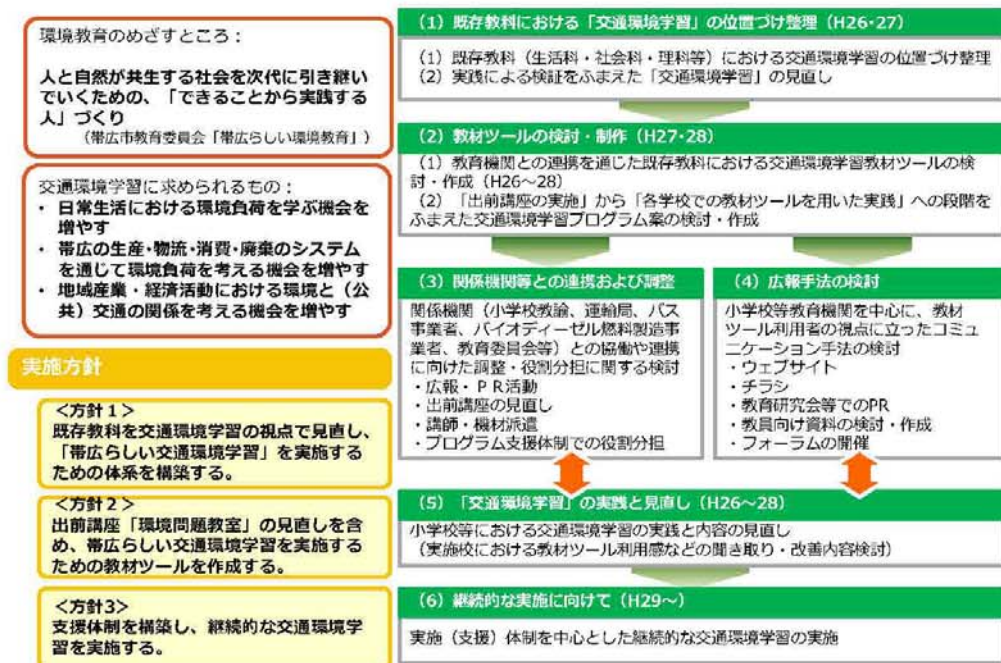
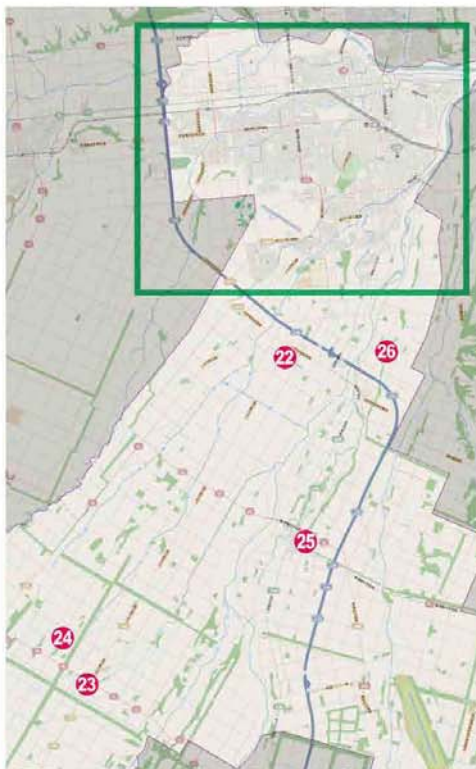


図 3 帯広市交通環境学習プランの概要

表 1 「自主実施」と「出前講座」の関連

「教材ツール」による小学校での自主実施	出前講座
<ul style="list-style-type: none"> □ 各小学校における、単元内での利用を想定した教材(スライド、資料集など)を整備する。 □ 授業1時間(45分間)の指導案を作成する。 <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の授業において、地域素材として「交通と環境」に関する学習が行える。 ・ 通常の授業形態となるため、前後の学習と関連した取り扱いが可能である。 ・ 教育機関が受け入れやすい仕様(教材ツールのバインダー収録など)により全校配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 1単元(45分間)を外部講師(帯広市・運輸行政・再生燃料事業者・バス事業者)が行う。 □ 低・中学年(1~4学年)では座学と体験学習、5学年以上では座学で実施する。 <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通環境学習のきっかけとして、教材ツールの紹介・説明等を行う。 ・ 出前講座の申し込み時に自主実施内容を提示するなど、「出前講座」の内容は、将来的には学校による自主実施に移行する。

(対象エリアと小学校位置)



No.	小学校名	住所	もよりバス停
1	帯広小学校	西8南5	(十勝)帯広小学校前
2	西小学校	西23南1	(十勝)西帯広
3	柏小学校	東8南11	(十勝)柏小学校前
4	明星小学校	西4南23	(十勝)明星校前
5	緑丘小学校	西14南17	(十勝)緑ヶ丘小学校前
6	北栄小学校	西7南1	(十勝)北栄校正門前
7	光南小学校	東5南20	(十勝)東4条22丁目
8	東小学校	東7南2	(十勝)東8条2丁目
9	啓西小学校	柏林台中町4	(十勝)柏林台南町1丁目
10	稲田小学校	西15南39	(十勝)稲田小学校前
11	豊成小学校	清流西1	(十勝)帯広コア専門学校前
12	大空小学校	大空町3	(十勝)大空3丁目
13	栄小学校	西17北1	(拓殖)栄小学校
14	若葉小学校	西17南6	(拓殖)西17条6丁目
15	広陽小学校	西19南3	(十勝)広陽福祉センター前
16	花園小学校	公園東町2	(十勝)公園東町4丁目
17	啓北小学校	西14北7	(拓殖)西13条北8丁目
18	開西小学校	西22南3	(十勝)新緑通22条
19	明和小学校	西19南4	(十勝)春駒通19条
20	森の里小学校	西22南4	(十勝)森の里小学校前
21	つつじが丘小学校	西24南3	(十勝)西23条2丁目
22	川西小学校	川西町西3	(毎日交通)川西支所前
23	清川小学校	清川町西3	
24	広野小学校	広野町西1	
25	大正小学校	大正町550	(十勝)大正小学校前
26	愛国小学校	愛国町基線	(十勝)愛国小学校前

図 4 帯広市内小学校位置

2-2. 交通環境学習プラン

2-2.1. 既存教科における「交通環境学習」の位置づけ整理

(1) 教科における位置づけ

交通環境学習を帯広市の広い範囲で、かつ教育現場が取り入れやすいものとするため、既存の教科単元を「交通環境学習」の視点から見直し、既存教科の中で「交通環境学習」を実施するための位置づけを整理する。

小学校の学習指導要領においては、「環境」の学習は、社会科・理科・総合的な学習の時間において学習目標が設定されている。社会科・理科においては「安全な生活のためのはたらき」を前提として、「環境基本法」における「7大公害」に則した内容となっている(大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・騒音・地盤沈下・振動・悪臭)。

「交通」あるいは「公共交通」については、1・2 学年生活科における「公共物や公共物の利用」、3・4 学年社会科の「身近な地域の様子」における「公共施設の働き」、「昔の暮らし」などにおける交通の発展の様子などが挙げられている。

現在の単元の学習目標において「交通」と「環境」を結びつけた項目としては、社会科の「公害(大気汚染)」に限定されており、帯広市の社会科副読本(3・4 年生)のコラムにおいて「バイオディーゼル燃料を使った路線バス」が挙げられる。

「交通環境学習」は、これらの学習目標に合致する形で、体験的かつ実践的な教材ツールの検討を行うことにより、幅広く交通環境学習を取り入れるため、帯広らしい環境学習の推進を図る。

学年(小学校)	学習目標
低学年(1・2 年)	実感 バスについての興味・関心をもつ。 バスにのることの安全面からのルールへの関心をもつ。 地域の乗り物、みんなで使うものへの関心をもつ。
中学年(3・4 年)	実感 地域への関心をもつ。 公共交通の役割についての関心をもつ。 理解 公共交通の使い方・マナーについての知識を深める。 → 公共交通と環境負荷の関係 実践
高学年(5・6 年)	実感 まちづくりと政治についての関心をもつ。 理解 公共交通の役割についての知識を深める。 → 福祉と公共交通との関係 実践
→ 授業計画への取り込みやすさによる広がりを目指す	

2-2.2. 出前講座（環境問題教室）の見直し

交通に関しては、平成 19 年より小学校 4・5・6 年生を対象に「環境問題教室」として、北海道運輸局、帯広市、バイオディーゼル燃料製造事業者、バス事業者が講師となって出前講座の形式で実施してきた。「環境問題教室」(座学)は、「地球温暖化」「温暖化と運輸」「運輸と地域の再生エネルギー(バイオディーゼル燃料)」の 3 部から成り、現在は高学年を対象とした内容となっている。

平成 26 年度に行った構成・表現見直しを基本として、次年度以降は児童の発達段階に応じた内容等、取り組みやすい内容への見直しを行う。併せて、座学内容を反映した校外学習のプログラムの検討を行う。

出前講座の内容(案)	
1 学年	<座学: 15分> みんなでつかうのりもの(マナー) <体験: 30分> バスにのってみよう(バスごっこ)
2 学年	<座学: 15分> みんなでつかうのりもの(まちたんけん) <体験: 30分> 交通すごろく/バスにのってみよう
3 学年	<座学: 15分> バスのしごと(まちたんけん) <体験: 30分> 交通すごろく(CO2版)
4 学年	<座学: 25分> エネルギーと公共交通のおはなし <体験: 20分> 交通すごろく(CO2版、児童自ら集計)
5 学年	<座学: 45分> 交通と環境のおはなし
6 学年	<座学: 45分> まちとバスの役割 5・6 学年では、関連する体験学習(バス会社見学等)を提示
→ 1～6 年生で実施可能な出前講座プログラムの作成	

2-2.3. 教材ツールの検討・制作

一般市民にとって「交通」は身近なものであるが、児童にとっては抽象的な理解が求められる状況も多い。交通の役割や地球温暖化のメカニズム、交通とまちづくりなどの課題を理解し、児童が積極的に学習に取り組むためには、体験を通じた意欲・思考を促す教材が効果的であると考えられる。

そこで、教育現場で手軽に利用するための映像クリップ(各テーマ 1～3 分程度)、体験教材といった教材ツールについて検討を行い、配布方法を含めた効果的な学習プログラムの構築に繋げていく。これら教材の作成にあたっては、とくに教育関係者を含めた検討会議ならびに意見交換会での意見を踏まえて検討する。

教材ツールの種類	
映像クリップ	「バスの乗り方」「温暖化のしくみ」「バイオディーゼル燃料ができるまで」など、実際に体験するが難しい内容や、効果的に理解を深めるための映像ツールを作成する。 映像クリップは DVD での「クリップ集」として小学校配布、図書館等での閲覧、関係機関ウェブサイトでの公開(一部ダイジェスト)を目指す。
交通すごろく	低学年向け:地域のバス路線などを知る。 中学年以上:地域の施設や土地利用、自動車の過度な利用による環境への影響について疑似体験するものとする。
体験ツール (ごっこ遊び)	低学年向け:バス車内を再現する体験用ツール(ごっこ遊び) 高学年向け:バイオディーゼル燃料の製造過程別のサンプルなど
紙しばい	1学年向けの「みんなでつかうのりもの」として、道徳での利用を想定して制作する。
ワークシート	「まちたんけん」「バスののりかた」「ゴミとエネルギー」等について、学習内容を補完するワークシートを作成する。
素材集	地球温暖化や自動車保有台数等の統計データや写真素材など
→ 「出前講座」と「小学校での自主実施」を目的として教材ツールを制作する。	

2-2.4. 関係機関等との連携および調整

本計画の実施のためには、教育機関ならびに行政、交通事業者、再生エネルギー事業者が連携し、調整を図りながら推進する必要がある。行政内部にあっては、教育、小学校、図書館など教育機関をはじめ、運輸と環境などの関係部局との連携・協力が不可欠となる。

実施方針、プログラム内容の策定については学識者と上記関係者による「帯広市交通環境学習検討会議」において検討と情報共有を行う。また、教材ツールやパッケージ等、個別のプログラム内容に関しては「意見交換会」により検討を行う。

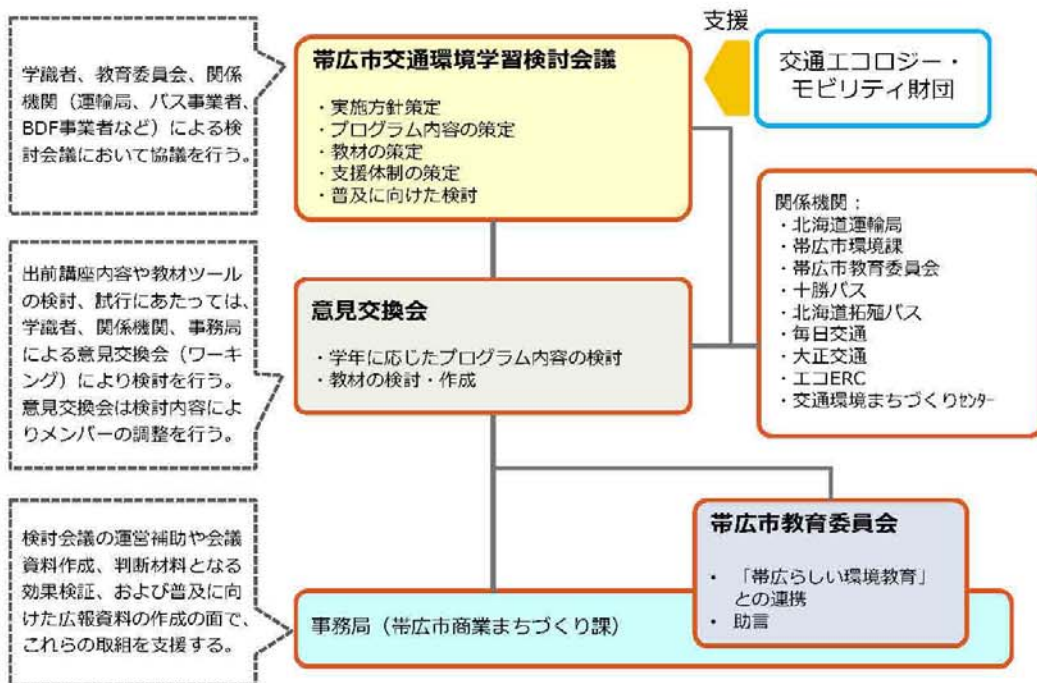


図 5 実施体制

連携体制における活動内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報・PR 活動 ・ 出前講座における役割 ・ 講師・機材の派遣対応 ・ 支援体制(窓口)
→ 継続的な支援に向けた実施体制を構築する

2-2.5. 広報手法の検討

教育委員会の「帯広らしい環境教育」との整合を計り、「人と自然が共生する社会を次代に引き継ぐため、“できることから実践する人づくり”」をテーマとし、「実感」「理解」「実践」のつながりを重視した構成に配慮する。検討にあたっては、学習指導要領における学習目標との整合性を明確にしたうえで、検討プログラムの公開や関連情報を掲載するウェブサイト等を含め、学校側がより取り組みやすい環境を整備する。

また本プランで検討する教材ツールについては、個別の紹介と共に、具体的な授業例のパッケージや利用の手引きを作成して教材の利用意図を高め、教育現場に提案する。

実施目標	
(1)	ウェブサイトの作成(平成 28 年度～)
	① 教材ツールの紹介
	② パッケージ・手引きの作成・紹介
(2)	教育研究会等での PR 実施(平成 27・28 年度)
(3)	フォーラムの開催(平成 28 年度)
	① 教材ツール利用例の紹介(公開授業、ワークショップ 等)
→ 効果的な広報の実施を目指す。	

2-2.6. 継続的な実施に向けて

本プランは、帯広市内の小学校において、広く継続的に「交通環境学習」を取り入れた学習を行うことを目標とする。この目標を達成するため、(1)授業支援体制の整備、(2)必要に応じた教材ツールの更新、(3)情報提供を継続して実施することを目指す。

実施内容	
(1) 授業支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見交換会の継続実施 ・ ウェブサイトの作成 ・ 交通環境学習に関する窓口・問い合わせ先の設置
(2) 教材ツールの更新	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じたデータ更新
(3) 情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウェブサイトによる情報提供(交通環境学習の趣旨、教材ツールの紹介、パッケージ・手引き等) ・ 教育関係団体での内容紹介(研究大会等での PR)

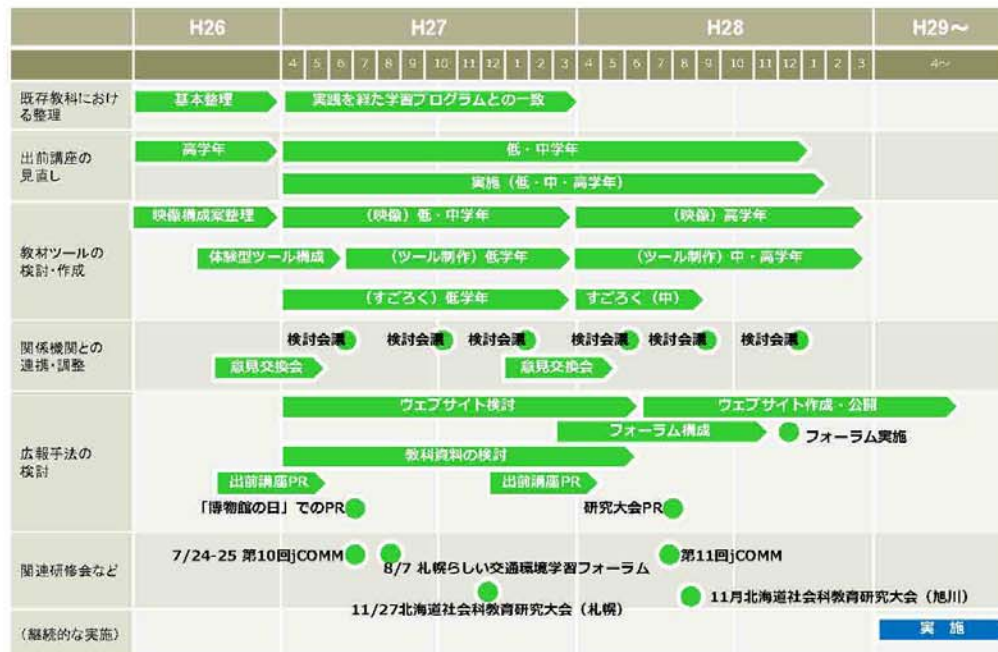
2-2.7. 交通環境学習の実践と見直し

2-2-2～2-2-3 で作成した「環境問題教室」「教材ツール」を実際の小学校で利用していただき、児童・教師からの利用感をフィードバックさせ、資料の見直しを行う。

実施目標	
平成 28 年度	教材利用校 5 校、出前講座 5 校実施
平成 29 年度	教材利用校 13 校、出前講座 5 校実施
平成 30 年度	教材利用校 21 校、出前講座 5 校実施(以降継続実施)
→ 資料の精度の向上を目指す	

2-3. スケジュール

本プランでは、平成 28 年度で教材ツールの完成を目指すとともに、28 年度にフォーラムを開催し、広く環境教育学習の意義や教材ツールの紹介を行う。教材ツール、支援体制の整備後は帯広市内の全小学校を対象に、継続的な実施を目指す。



<資料2> 1 学年用自主実施教材

ヒロくんバスにのる



①表紙

みなさんは「バス」に
のったことは、ありますか？
ヒロくんは、おともだちのチカちゃんと、
今日、はじめて、バスにのります。
バス停でまっていると、
バスがやってきました。



②

バスの中です。
いろいろな人が
のっています。



③

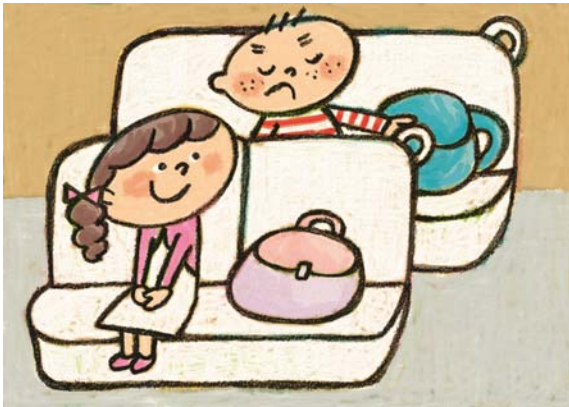
ヒロくん、はじめてのバス。
いろんなものが気になります。
「ヒロくん、すわらないの？」
とチカちゃん。
「いやだよ。ぼく、バスの中を
みたいんだ」
ヒロくんは、バスの中を歩き回っています。



④

バスがうごきました。
おっと！あぶない。
ヒロくん、よろけてころびそうになりました。
「わっ、あぶなかったな～」
運転士さんがヒロくんに言いました。
「バスがうごいているときは、
いすにすわるか、手すりにつかまろうね」

ヒロくんバスにのる



⑤
「すわったり、
つかまらな
いとあぶ
ないんだ
ね」
ヒロくんは、チカちゃん
の後ろの
いすに座
りました。
かばんを、
となりの
いすに置
きました。



⑥
つぎのバ
ス停でバ
スがとま
ります。
おきやく
さんが乗
ってきま
した。



⑦
次のバス
停でも、
おきやく
さんが乗
ってきま
した。
「ヒロく
ん、かば
んをよけ
ないの？」
「いやだ
よ。ここ
はぼくの
いすだよ」



⑧
「ふーん」とチカちゃん。
チカちゃん
は、かば
んを膝の
上におき
ました。
となりに、
おねえさ
んがすわ
ります。
おねえさ
んはチカ
ちゃんに
「どうも
ありがと
う」とお
礼をいっ
てくれま
した。

ヒロくんバスにのる



⑨
バスに
たくさんお客さんが
のってきました。
ヒロくんのとなりは
あいたまま。



⑩
すこしすると、
赤ちゃん、小さい子を
つれた人が
のってきました。
にもつも重そうです。



⑪
みんなは、どうする？
ヒロくんは、どうするかな？



⑫
ヒロくんは、
思いきって、
はなしかけました。
「ここどうぞ！」

ヒロくんバスにのる



⑬

「いすをゆずってくれて、
どうもありがとう。
お兄ちゃんは
座らなくて大丈夫？」
「手すりに
ちゃんとつかまるので
大丈夫です」
とヒロくん。



⑭

ヒロくん、2年生。
ちょっと
お兄さんになったかな？

<資料3> 2学年用自主実施教材

みんなでつかうのりもの	
	<p>ここに行ったこと、あるかな？ どんなどころかな？</p>
	<p>ここは、動物園です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物がいる。(シロクマ/ホッキョクグマ、ゾウ、サルなど) ・動物にえさをあげるところ(ふれあい動物園など) ・あそぶところがある。(観覧車など)
	<p>ここに行ったことはあるかな？ なにがあるところかな？</p>
	<p>本がたくさんあるところ。 DVDもかりたことがある人もいるかな？</p>

みんなでつかうのもの



ここは行ったことあるかな？
どんなところかな？



大きなお店です。
・服や食べ物を売っています。



ここは行ったことあるかな？



帯広駅です。
鉄道の列車がとまって、
人がのったりおたりします。

みんなでつかうのりもの



では、どうやって、そこに行きましたか？

- ・歩いて。
- ・自転車で。
- ・クルマで。



クルマで行ったことのある人、
たくさんいますね。
クルマって、どんなクルマ？
人をはこぶクルマを、いろいろみてみましょう。
はじめはこのクルマです。
そう、おうちのクルマです。
このクルマに乗るのは、どんな人？
・おうちの人、わたし など



では、このクルマ。
乗ったことあるかな？
これは大きなタクシー、ジャンボタクシーといいます。
帯広のまちを走っています。
このクルマに乗るのは、どんな人？
おうちのクルマと、なにがちがう？
・わたし、おうちの人、・運転する人（おうちの人ではない）
・他のお客さんも乗る



では、このクルマは？
そう、バスです。これも帯広のまちを走っています。
このクルマに乗るのは、どんな人？
タクシーと、ちがうところはある？

みんなでつかうのりもの

4人



9人



ちがうところは、いろいろありましたね。

何人のれるか、くらべてみましょう。

おうちのクルマとタクシーです。

何人乗れるかな？

・おうちのクルマ：4～5人

（運転する人も入れて）

・ジャンボタクシー：9人

（運転する人も入れて）

4人



45人



では、

おうちのクルマとバスを

くらべてみましょう。

・おうちのクルマ：4～5人

（運転する人も入れて）

・バス：45人



バスは大きなクルマなので、

一度にたくさんの人を運びます。

このクラスみんなで、

バスで動物園に行くとしたら、

バス1台でみんな乗れます。

クルマだったら？

こんなにクルマが必要です。

（運転する人も入れる）

クルマがたくさんあるので、排気ガスもたくさん出ます。



おうちのクルマに乗るときは、

家の前から乗ります。

バスに乗るときは、どうでしょうか。

「バス停」というところがあります。

こんな看板みたいなものを

見たことはありますか？

みんなでつかうのもの



この学校の近くにも
「バス停」があります。
見たことありますか？
(市内路線沿線校)



これもバス停です。
屋根がついています。
いろいろな形のバス停が
あります。



では、さっきのみんなが行ったことがあるしせつ。
バスで行けるでしょうか。
動物園の近くにも、
バス停はあるでしょうか。
ありました。



図書館の近くには、
あるでしょうか。
ありました。
図書館の向かいにある、「とかちプラザ前」というバス停が
一番近いバス停です。

みんなでつかうのりもの



大きなお店の近くには？
ありました。



みんなでつかう施設の近くには、
クルマを使わない人でも
行けるように、バス停があります。
他にはどんなところに、
バス停があると思いますか。

<資料4> 3 学年用自主実施教材

バスのやくわり(駅のまわり・町のしごとを調べる)



帯広には大きな駅があります。
帯広駅です。
駅は、どんなところでしょうか。



駅は、鉄道の列車が停まります。
たくさんの人が、帯広駅に來たり、いろいろなところへ行きます。
帯広駅のまわりを見てみましょう。



駅のまわりです。
帯広駅は右側の建物です。



駅のまわりは、高い建物が多くあります。

バスのやくわり(駅のまわり・町のしごとを調べる)



駅のまわりにもどります。
この、影になっているのはなんでしょうか。
駅のまわりは、たくさんの人が通るので、
お店が入った、ビルがあります。



同じところを地図にしたものです。
ここに、ちょっと不思議な道路が
あります。
「く」の字に曲がって、行き止まりのように見えます。
ここは、駅から見てどの方向にありますか？



北東の方角にあります。



もう少し近づいてみましょう。
地上から見てみましょう。

バスのやくわり(駅のまわり・町のしごとを調べる)



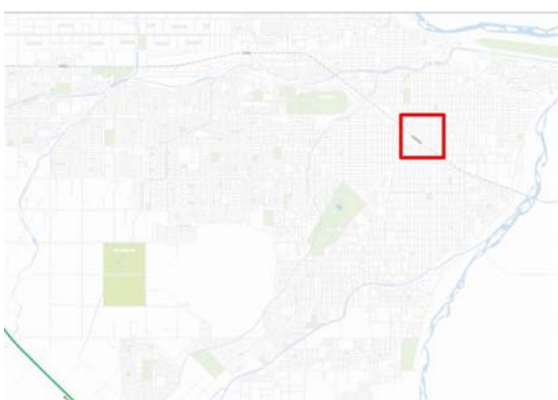
屋根があります。



バスがとまっています。
 ここは、バスだけが入れる、
 バスのりばです。
 帯広駅のすぐそばにある、
 バスターミナルというところです。
 帯広市を走るバスは、必ずここに停まります。

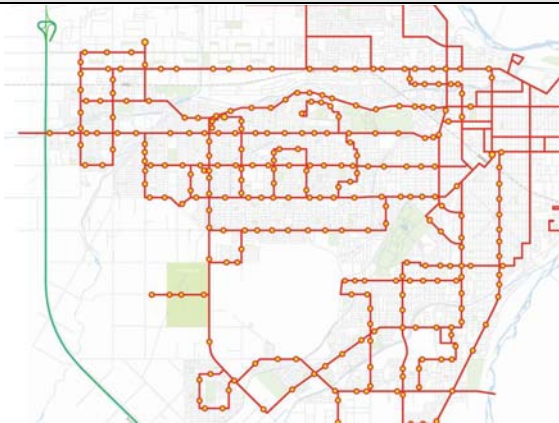


バスは、バスターミナルを出て、
 帯広市のなかを、
 いろいろな方向に走っています。



駅のまわりから、
 もっと遠くまで見てみましょう。
 さっきよりも大きな地図です。
 さっきの地図の場所はここでした。

バスのやくわり(駅のまわり・町のしごとを調べる)



バスが走っているところは、ここです。
(路線をかさねます)
さっきのバスターミナルのように、
バスが停まる場所は、どれくらいあると
思いますか？



バスが停まるところの近くには、
どんなものがあると思いますか？

- 公共施設
- 病院
- お店
- 団地
- 緑ヶ丘公園など

バスで、帯広のいろいろな所へ行ることができます。



運転士さんに、
話を聞いてみましょう。
(バスの運転士の話)

1) みなさん、こんにちは。2) 私の仕事は、バスの運転士です。3) バスの運転士は、大きなクルマ「バス」を運転して、みなさんを、目的地まで乗せていきます。4) バスは大きなクルマなので、普通の自動車と違って、すこし大変ですが、みなさんに会えるのでやりがいのある仕事です。

<資料5> 3学年用「バスのしごと」写真資料

バスのしごと(写真素材集)



バスの会社の中では、朝早くから、
天気や、道路の情報を確認しています。



運転士さんが会社に来ました。

最初に、バスの点検をします。
毎朝、かならずすることです。
これはワイパーを点検しているところです。



タイヤの空気や、いたみがないかをチェック。



エンジンルームを開けています。
エンジンオイルや、エンジンの力を伝える
大きなベルトにゆるみがないかなど、
チェックします。

バスのしごと(写真素材集)



バスは大きなクルマなので、
サイドミラーもこんなに大きいのです。
ここも、ゆるみや、がたつきがないかチェックします。



ドアは、なにかあったら、
手で開けられるようになっています。
きちんと動くかどうか、ここも確認します。



バスの中に乗ったら、電球が切れていないか確認。



バスの料金がわかるように、乗るときにとる整理券。
つまったりしていないか、券はきちんとあるでしょうか。

バスのしごと(写真素材集)



運転席はたくさんボタンがあります。
車内のアナウンスを流したり、
ドアを開けたりするボタン。
きちんとドアがしまっていないときにつくランプ。



点検が済んだら、会社にもどり、
今日の予定を確認します。
会社の人から、今日運転するバス路線の資料や、
バスの鍵、金庫を受け取ります。

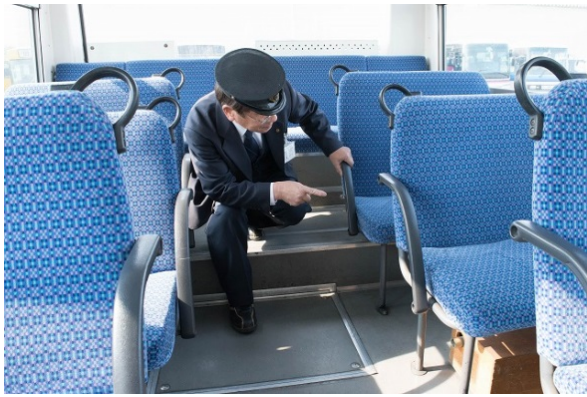


駐車場にあるバスに向かいます。



いよいよ出発です。
今日も安全にお客さんをはこびましょう。

バスのしごと(写真素材集)



バスが会社にもどってきました。
忘れ物や落し物がないかどうか、
車内を点検します。



お客さんからいただいた運賃が入った金庫を出します。



バスを降りて、会社にもどります。



金庫をおさめます。